4 写真の省略

工事写真は次の場合は省略するものとする。

- (1) 品質管理写真については、公的機関で実施された品質証明書を整備できる場合。
- (2) 出来形管理写真については、完成後明視でき容易に測定可能な箇所。
- (3) 監督職員または現場技術員が臨場して段階確認した箇所(不可視部分を含む)の出来形管理写真。

5 写真の編集等

写真の信憑性を考慮し、写真編集は認めない。ただし、「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について」(平成29年3月31日付け、28高技管第329号)に基づく小黒板情報の電子的記入は、これに当たらない。

6 色彩、寸法及び形式

(1) 色彩

工事写真は、デジタル写真管理情報基準によるが、電子納品対象工事でない場合については、カラーフィルムのカラープリントまたは、デジタルカメラの場合は、カラープリンター300bpi 以上とする。

(2) 寸法

デジタル写真管理情報基準によるが、電子納品対象工事でない場合については、サービス版サイズ 程度とし、監督職員が必要に応じ指示する場合は、受注者はこれに従うとともに、工事写真等を、A 4版の大きさの工事写真帳に整理するものとする。

(3) 形式

デジタル写真管理情報基準によるが、電子納品対象工事でない場合については、工事写真の撮影機の形式は、ネガフィルムを使用するスチールカメラまたは、デジタルカメラとする。

7 施工状況写真

工種毎に主要な施工中の状況等を工事施工段階の記録として撮影しなければならない。

また、工事着手前、工事途中、完成の写真が相互に関連するように、工事箇所の全体的な状況写真を撮影し、工事工程が段階的に概況把握できるよう写真管理を行わなければならない。

なお、施工状況写真については、ビデオ等の活用ができるものとする。

8 出来形管理写真

外面から明視できない部分の出来形寸法等は、記録として撮影しなければならない。ただし、監督職員または現場技術員が臨場して段階確認した箇所の出来形管理写真撮影は省略する。

監督職員または現場技術員がやむを得ず立ち会うことのできない場合は、適宜な方法の指示を受け、 出来形寸法や作業状況等が確認できる写真撮影を行い、その結果の確認を受けなければならない。

9 品質管理写真

品質管理における試験、検査及び測定時には監督職員が立会、確認し写真撮影することを原則とする。 ただし、監督職員がやむを得ず立ち会うことのできない場合は、受注者は監督職員がその都度指示す る適宜の方法に従い、その結果の確認を得なければならない。

10 災害写真

工事中における災害については、受注者は災害以前の管理資料と災害後の管理資料の比較を、次の事項を考慮して撮影しておかなくてはならない。

- (1) 被災状況を確認できるように、洪水、漏水、決壊、崩壊等の状況及び臨機の措置の施工等を撮影すること。
- (2) 撮影は、工事箇所付近の災害状況、被災箇所全域状況等、また、被災箇所の寸法等が判別出来るよ

う撮影をすること。

11 事故写真

事故箇所の発生前、発生直後、発生後の事故状況が分かる写真及び、安全対策実施状況等を撮影する。

12 その他(公害、環境、工事損害影響管理写真)

受注者は、工事により第三者の物件等に損害の影響が考えられる場合は、事前、施工中、事後の工事 影響のわかる調査写真を撮影し、監督職員に提出しなければならない。

環境対策として、イメージアップ等の各施設設置状況等を撮影する。

(品質証明)

第10条 受注者は、設計図書で品質証明の対象工事と明示された場合には、品質証明に従事する者が事前に品質確認を行い、検査時にその結果を所定の様式により提出しなければならない。

(検査)

- **第11条** 受注者は、工事検査に際しこの要綱に定める管理資料等を監督職員に提出しなければならない。 また、電子納品については「電子納品運用に関するガイドライン 工事編」による。 (その他)
- **第12条** この要綱によりがたいものは、監督職員と協議のうえ別途定めることができる。また、この要綱に定めるほか必要と認める管理方法等について適宜追加することができる。

なお、施工途中で管理が必要となったものは、協議の上実施できるものとする。

附則

- 1 この要綱は、平成17年4月1日から施行し、同日以降契約する工事から適用する。
- 2 この要綱は、平成20年5月1日から施行し、同日以降契約する工事から適用する。
- 3 この要綱は、平成21年4月1日から施行し、同日以降契約する工事から適用する。
- 4 この要綱は、平成29年10月1日から施行し、同日以降契約する工事から適用する。
- 5 この要綱は、平成30年10月1日から施行し、同日以降契約する工事から適用する。
- 6 この要綱は、令和元年10月1日から施行し、同日以降契約する工事から適用する。
- 7 この要綱は、令和2年10月1日から施行し、同日以降契約する工事から適用する。
- 8 この要綱は、令和3年4月1日から施行し、同日以降契約する工事から適用する。
- 9 この要綱は、令和3年10月1日から施行する。

【第10編 道路編】

出来形管理基準及び規格値 索引

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第7節 縁石工	10-16-7-3		縁石工		3-2-3-5 縁石工	I -8
第8節 防護柵工	10-16-8-3		路側防護柵工		3-2-3-8 路側防護柵工	I -9
	10-16-8-4		防止柵工		3-2-3-7 防止柵工	I -9
	10-16-8-5		ボックスビーム工		3-2-3-8 路側防護柵工	I -9
	10-16-8-6		車止めポストエ		3-2-3-7 防止柵工	I -9
第9節 標識工	10-16-9-3		小型標識工		3-2-3-6 小型標識工	I -8
	10-16-9-4		大型標識工		10-2-9-4 大型標識工	I -118
第10節 区画線工	10-16-10-2		区画線工		3-2-3-9 区画線工	I -10
第12節 道路付属施設工	10-16-12-4		道路付属物工		3-2-3-10 道路付属物工	I -10
	10-16-12-5		ケーブル配管工		10-2-12-5 ケーブル配管工	I -119
	10-16-12-6		照明工		10-2-12-6 照明工	I -119
第13節 軽量盛土工	10-16-13-2		軽量盛土工		1-2-4-3 路体盛土工	I -6
第 14 節 擁壁工	10-16-14-3		場所打擁壁工		3-2-15-1 場所打擁壁工	I -87
	10-16-14-4		プレキャスト擁壁工		3-2-15-2 プレキャスト擁壁 エ	I -87
第 15 節 石・ブロック積 (張) 工	10-16-15-3		コンクリートブロッ クエ		3-2-5-3 コンクリートブロッ クエ	I -26
	10-16-15-4		石積(張)工		3-2-5-5 石積(張)工	I -27
第16節 カルバートエ	10-16-16-4		場所打函渠工		10-1-9-6 場所打函渠工	I -115
	10-16-16-5		プレキャストカル バートエ		3-2-3-28 プレキャストカル バートエ	I -17
第17節 法面工	10-16-17-2		植生工		3-2-14-2 植生工	I -84
	10-16-17-3		法面吹付工		3-2-14-3 吹付工	I -85
	10-16-17-4		法枠工		3-2-14-4 法枠工	I -86
	10-16-17-6		アンカー工		3-2-14-6 アンカーエ	I -86
	10-16-17-7		かご工	じゃかご	3-2-3-27 羽口工	I -17
	10 10 17 7		7, C T.	ふとんかご	3-2-3-27 羽口工	I -17
第 18 節 落石雪害防止工	10-16-18-4		落石防止網工		10-1-11-4 落石防止網工	I -115
	10-16-18-5		落石防護柵工		10-1-11-5 落石防護柵工	I —115
	10-16-18-6		防雪柵工		10-1-11-6 防雪柵工	I —116
	10-16-18-7		雪崩予防柵工		10-1-11-7 雪崩予防柵工	I —116
第20節鋼桁工	10-16-20-3		鋼桁補強工		10-16-3-4 桁補強材製作工	I - 139
第21節 橋梁支承工	10-16-21-3		鋼橋支承工		10-4-5-10 支承工	I -126
	10-16-21-4		PC橋支承工		10-4-5-10 支承工	I -126
第22節 橋梁付属物工	10-16-22-3		伸縮継手工(ゴムジョイント)			I —140
	10-16-22-4		落橋防止装置工		10-4-8-3 落橋防止装置工	I -127
	10-16-22-6		地覆工		10-4-8-5 地覆工	I -127
	10-16-22-7		橋梁用防護柵工		10-4-8-6 橋梁用防護柵工	I -127
	10-16-22-8		橋梁用高欄工		10-4-8-7 橋梁用高欄工	I -127
	10-16-22-9		検査路工		10-4-8-8 検査路工	I -127
第 25 節 現場塗装工	10-16-25-3		橋梁塗装工		3-2-3-31 現場塗装工	I -19
	10-16-25-6		コンクリート面塗装工		3-2-3-11 コンクリート面塗 装工	I -10

	第	1 —	般土木	:工事の	部								単位:mm
	編	章	節	条	枝番	工種	測定	項目	規格	各 値	測 定 基 準	測 定 箇	所 摘 要
	1 共通編	2 土 工	3 河川・海岸・砂防土工	2	1	掘削工	基 準 法長 Q	高 ▽ ℓ<5m ℓ≧5m	-:	50 200 -4%	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。 ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案) 土工編 計測技術 (断面管理の場合)」の規定により測点による管理を行う場合は、設計図書の測点毎。基準高は掘削部の両端で測定。		1-2-3-2
1-1			T		2	掘削工(面管理の場合)	平場法のでは、おおいでは、おおいでは、おおいでは、おおいでは、おおいでは、おおいでは、おおいでは、おおいでは、おおいでは、おおいでは、おおいでは、おおいでは、おおいでは、おおいでは、おおいでは、おおいでは、	標高較差 水平または標高較差	平均值 ±50 ±70	±150 ±160	1. 3次行気に 大きな (1) を (1) を (2) を (2) を (3) による (4) というでは、標本では、標本では、一般による。 (5) の高融」とは、「3、大力には、で、一般には、で、一般には、で、一般には、で、一般には、で、一般には、で、一般には、で、一般に、で、一般に、で、一般に、で、一般に、、、、、、、、、、、、、、、、	・天端部の計測点 ・法面部の計測点 ・法面部の計測点 ・計測密度 ・平面積 1点 m2 ・ 小段	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定	項目	規材	各値	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘 要
1 共通編	2 土 工	の河三	2	3	掘削工 (水中部) (面管理の場合)			平均値	計測値	1.3次元データによる出来形管理に おいて「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)河川浚渫工事編」に	2-3-2
利用		· 海 岸			(画官達の場合)	平場	標高較差	±50		基づき出来形管理を面管理で実施する 場合、そのほか本基準に規定する計測	
		砂防土工				法面 (小段含 む)	水平または 標高較差	±70	±300	精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	
		工					<u> </u>			2. 個々の計測値の規格値には計測精 度として±100mm が含まれている。	
										3. 計測は平場面と法面の全面とし、	
										すべての点で設計面との標高較差を算 出する。計測密度は1点/m2(平面投影 面積当たり)以上とする。	

-313-1 —

出来形管理基準及び規格値

_							_					単位:mm
	編	章	節	条	枝番	工種	測定	項目	規	各値		所 摘 要
	1 共	2 土	3 河	3	1	盛土工	基 準	高▽	_	50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は w ₁	1-2-3-3
	通編	工	川 · 海				法長ℓ	0<5m	_	100	50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。 基準高は各法肩で測定。	2
			岸 •					ℓ≧5m	法長	-2%	一ただし、「3次元計測技術を用いた出 来形管理要領 (案) 土工編 計測技術	>
			砂 防-				幅 w	7 ₁ , W ₂	_	100	一(断面管理の場合)」の規定により測点による管理を行う場合は、設計図書の測点毎。基準高は各法肩で測定。	
			土工				勾配	S < 1割	±0.	5分	一 ジャカス 公平同様 日 公月 く 関ル。	
							7)	S ≧ 1 割	±1.	0分		
					2	盛土工 (面管理の場合)			平均値	個々の 計測値	[おいて「3次元計測技術を用いた出来 * ^{* 天端部の計測点}	4
							天端	標高較差	-50	-150	形官理安頓(条)工工柵 多点計例技 術(面管理の場合)」に基づき出来形	
							<u></u> 法面	標高較差	F0.	-170	管理を面管理で実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度 を満たす計測方法により出来形管理を	₹
							4割<勾配	保 商 収 定	-50	-170	実施する場合に適用する。	
							法面 4 割≧ 勾配	標高較差	-60	-170		
							(小段含む)					6
2							※ただし、 ここでの勾					Mr. I
							配は、鉛直方向の長さ				₩ [小段]	4
							1に対する、水平方					
							向の長さX をX割と表 したもの				2. 個々の計測値の規格値には計測精 度として±50mm が含まれている。	
											3. 計測は天端面と法面 (小段を含む)の全面とし、全ての点で設計面との標高較差を算出する。計測密度は1点/m2 (平面投影面積当たり)以上とする。	
											4. 法肩、法尻から水平方向に±5cm 以内に存在する計測点は、標高較差の 評価から除く。	
											5. 評価する範囲は、連続する一つの面とすることを基本とする。規格値が変わる場合は、評価区間を分割するか、あるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。	
										Ī		

-314-

編	章	節	条	枝番	工 種	測定	項目	規格値	測	定基	準	測	定 箇 所	海 要	
1 共通編	2 土 工	3 河川・海岸・砂防土工	4		盛土補強工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強 土工法) (ジオテキスタイルを 用いた補強土工法)	厚	高 ▽ t t 長 さ 配	-50 -50 設計値以上 ±0.5分	施工延長 40m 50m)につき 50m)以下の 2 ヶ所。	1ヶ所、延:	25mの場合は 長 40m(又は 工箇所につき		T t	1-2-3-4	
1 共通編	2 土 工	3 河川・海岸・砂防土工	5		法面整形工 (盛土部)	厚	さ t	※ −30		1ヶ所、延 ものは1施 中央で測定。			t t	1-2-3-5	出来形管理基準及び規格値
1 共通編	2 土 工	3 河川・海岸・砂防土工	6		堤防天端工	厚さ t 幅	t <15cm t ≥15cm w	-25 -50 -100	場合は 50m)	につき 1 ヶ 以下のもの 。 延長 200 m	点間隔 25mの 所、延長 40m は 1 施工箇所 につき 1 ケ 中央で測定。		w t	1-2-3-6	値

	編	章	節	条	枝番	工 種	Ĩ	測	定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
Ī	1 共 通	2 土 工	4 道 路	1		道路一般 (IP)		延	L < 30 m	±10	1施工箇所につき1ヶ所。	IP 点間距離の計算値と測定値との差を 求める。IP 点間距離が直接測定出来な い場合は、IP を含めた 4 級基準点測量	1-2-4-1
	編	<u> </u>	土 工				:	長	L≧30m	$\pm L/3,000$		により求めた IP の座標値との差を求める。	
						道路一般 (中心線)			偏心	±10	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき		
								延	L < 20 m	±10	2ヶ所。 基準高は、道路中心線及び端部で測 定。	隣接する中心点等の点間距離の計算値 と測定値との差を求める。	
							-	長	L ≧20m	$\pm L/2,000$			
						道路一般 (路面)	7	砂	基準高▽	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき		測定項目欄の 砂利とは、舗 装計画のない
							,	利	全 幅	±50	2ヶ所。		路面をいい、 舗装とは、舗 装計画のある
								舗	基準高▽	±30		基準局は、道路中心線及び端部で測定。	路面をいう。
							3	装	幅 員	±25		中心線から左右路面端部を管理。	
I —4													

出来形管埋基準及ひ規格値
· 規格 個

	単位: n Nu 字
世	測定箇所摘要
注し 注し 注し 注し 注し 注し 注し 注し	t
「「「「「「「「」」」」」 「「「」」」」 「「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」」 「「」」 「「」」」 「「」」」 「「」」 「「」」」 「「」」」 「「」」 「」 「	w //
幅 w	T T T
対配	
S≥1割 ±1.0分	
では、	
中場 「標高較差 ±30 ±150 (面管理の場合)」に基づき出来 法面	₹
法面 水平または ±70 ±160 管理を面管理で実施する場合、その 本基準に規定する計測精度・計測密 を満たす計測方法により出来形管理 法面 水平または ±70 ±330 実施する場合に適用する。 (軟岩 I) (小段含 標高較差 (小段含 上の 大平または 大平または 大平または 世初 大平または 大平または 世初 大平まかまは 世初 大平または 世初 大平または 世初 大平まかまは 世初 世初 大平まかまは 世初 世初 世初 世初 世初 世初 世初 世	・ 天端部の計測点 ・
to)	
法面 水平または ±70 ±330 (軟岩 I) 標高較差 (小段含む)	計測密度 平面積 1点 m2
	平場
2. 個々の計測値の規格値には計測 度として±50mm が含まれている。	达 明
3. 計測は平場面と法面(小段を	
む) の全面とし、全で設計面 の標高較差または水平較差を算出す る。計測密度は1点/m2(平面投影 積当たり)以上とする。	
	m
以内に存在する計測点は、標高較差 評価から除く。同様に、標高方向に 5 cm 以内にある計測点は水平較差の 価から除く。	=
5. 評価する範囲は、連続する一つ 面とすることを基本とする。規格値 変わる場合は、評価区間を分割する) Š
変わる場合は、評価区間を対割する か、あるいは規格値の条件の最も厳 い値を採用する。	

及び規格
び規

		編	章	節	条	枝番	工 種	測	定	項目	規格	各 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	単位:mm 摘 要
		1 共	2 土	4 道	3 4	1	路体盛土工 路床盛土工	基	準	高▽	±	50	施工延長 40m(測点間隔 25mの場合は 50m)につき1ヶ所、延長 40m(又は	w ₁	1-2-4-3 1-2-4-4
		通編	工	路土	-		PH / N. 11. 12. 12.	法長	0.	ℓ<5m	-1	100	50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。	w ₂ , ∇ ∇ ∇	
				エ					~	0≧5m	法長-	-2%	ただし、「3次元計測技術を用いた出 来形管理要領(案)土工編 計測技術	e le	
								幅		W_{1}, W_{2}	-1	100	(断面管理の場合)」の規定により測点による管理を行う場合は、設計図書の測点毎。基準高は、道路中心線及び	LISTINITE X	
								勾配		S < 1割	±0.	5分	の側点丼。 基準間は、 道路中心線及び端部で測定。		
										S ≧ 1 割	±1.	0分			
							路体盛土工 路床盛土工				平均値	個々の 計測値	1. 3次元データによる出来形管理に おいて「3次元計測技術を用いた出来	●天端部の計測点	
							(面管理の場合)	天端		標高較差	±50	±150	形管理要領(案) 土工編 多点計測技術(面管理の場合)」に基づき出来形管理を面管理で実施する場合、その他	○ 法面部の計測点	
								法面		標高較差	±80	±190	本基準に規定する計測精度・計測密度 を満たす計測方法により出来形管理を	計測密度 平面積 1点/m2	
								(小段音 む)					実施する場合に適用する。		
318—	I - 6														
														r	
													2.個々の計測値の規格値には計測精 度として±50mm が含まれている。		
													3. 計測は天端面と法面 (小段を含む)の全面とし、全ての点で設計面との標高較差を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。		
													4. 法肩、法尻から水平方向に±5cm 以内に存在する計測点は、標高較差の 評価から除く。		
													5. 評価する範囲は、連続する一つの面とすることを基本とする。規格値が変わる場合は、評価区間を分割するか、あるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。		

編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 共通編	2 ± ±	4 道路土工	5		法面整形工 (盛土部)		厚 さ t	※ -30	施工延長 40mにつき1ヶ所、延長 40m 以下のものは1施工箇所につき2ヶ 所。法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。	t susususu	1-2-4-5
1 共通編	3無筋、鉄筋	7 鉄 筋 工	4		組立て		平均間隔 d	$\pm~\phi$	$d = \frac{D}{n-1}$	· 	1-3-7-4
	コンクリート						かぶり t	±φ かつ 最小かぶり 以上	D:n本間の延長 n:10本程度とする φ:鉄筋径	D	H
									工事の規模に応じて、1 リフト、1 ロット当たりに対して各面で一箇所以 上測定する。最小かぶりは、コンクリート標準示方書(設計編:標準7編2章2.1)参照。ただし、道路橋示方書 の適用を受ける橋については、道路橋示方書(Ⅲコンクリート橋・コンクリート部材編5.2)による。		出来形管理基準及び規格値
									注1) 重要構造物 かつ主鉄筋について 適用する。 注2) 橋梁コンクリート床版桁 (PC		· 規格個
									橋含む)の鉄筋については、第3編3- 2-18-2床版工を適用する。		
									注3) 新設のコンクリート構造物(橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25 ㎡以上のボックスカルバート(工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外))の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する。		

希	編	章	節	条	枝番	工 種	測定	項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要]
- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	4		矢板工 [指定仮設・任意仮設は除く] (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (ロンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)		高 ▽ 人 長 位 ℓ	±50 設計値以上 100	基準高は施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40 m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇 所につき 2ヶ所。 変位は、施工延長 20m (測点間隔 25m の場合は 25m) につき 1ヶ所、延長 20 m (又は 25m) 以下のものは 1 施工箇 所につき 2ヶ所。		3-2-3-4	Œ
1 7 1 1 1 1 1 1 1 1	3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	5		縁石工(縁石・アスカーブ)	延	長 L	-200	1ヶ所/1施工箇所 ただし、「3次元計測技術を用いた出 来形管理要領(案)舗装工事編 計測 技術(断面管理の場合)」の規定によ り管理を行う場合は、延長の変化点で 測定。		3-2-3-5	出来形管理基準及び規格値
二 一 二 三 三 三 三 三 三 〕	3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	6		小型標識工	基礎	高 さ H 幅w (D) 高 さ h 根入れ長	設計値以上 -30 -30 設計値以上	1ヶ所∕1基 基礎1基毎	w(D) h	3-2-3-6	

-320**-**

· tr	╗	章	hh:	/X	++-亚.	工種	3HI ↔	1百 日	規 格 値	測 定 基 準		単位:mm	1
	編	·	節	条	枝番		側足	項目	規 恰 ॥		測 定 箇 所 	摘要	1
= 7	3 土 木	2 一 般	3 共通始	7		防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止	基礎	幅 w	-30	単独基礎 10 基につき 1 基、10 基以下のものは 2 基測定。測定箇所は 1 基につき 1 ヶ所測定。	w i	3-2-3-7	
事 力	工 事 共	施 工	的工種			無路 (横断) 防止 (車止めポスト)		高 さ h	-30				
j A	通漏						パイプ耳	负付高 H	$+30 \\ -20$	1ヶ所/1施工箇所			
= 7	3 土 木	2 一 般	3 共 通:	8	1	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	幅 w	-30	1ヶ所/施工延長 40m 40m以下のものは、2ヶ所/1施工箇 所。	w 	3-2-3-8	Œ
事 力	事	施 工	的 工 種					高 さ h	-30		h		来形象
ì	通編						ビーム耳	负付高 H	$+30 \\ -20$	1ヶ所/1施工箇所	mm.		当理基
											H		出来形管理基準及び規格値
_	3 土 木	2 一 般	3 共 通	8	2	路側防護柵工 (ガードケーブル)		幅 w	-30	1ヶ所/1基礎毎		3-2-3-8 ※ワイヤロー プ式防護柵に も適用する	値
	工事共	施工	的工種				基礎	高 さ h	-30			も適用する	
ì	通漏		1.2					延長L	-100		kwy k I		
							ケーブル	取付高 H	+30 -20	1ヶ所/1施工箇所	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
											H		

—321**—**

編	章	節	条	枝番	工 種	浿	定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土木工事共通編	章 2 一般施工	即 3 共通的工種	余 16	及番 2	上 種PC押出し箱桁製作工	r F F	福(上) w ₁ 福(下) w ₂ 内空幅 w ₃	現 格 値 $-5 \sim +30$ $-5 \sim +30$ ± 5 $+10$ -5 $+10$ -5 $+10$ -5 $+10$ -5 $+10$ -5 $+10$ -5	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3ヶ所とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編3-2-18-2床版工に準ずる。 0:桁長(m)	wl	3-2-3-16 注)新統一部 25-3-16 注)新機一部 25-3-16 注)新機一部 25-3-19 以上・要性 25-3-3 以上・要性 25-3-3 以上がのプレーに 25-3 以上がのプレーに 25-3 以上がのプレーに 25-3 以上がのの及て 25-3 以上がのの及びは 25-3 以上がのの及びは 25-3 以上がの変が 35-3 以上がのが 35-3 は上げる 35-3 は上
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	17		根固めプロック工	層積	基準高▽ 厚さ t 幅W1, W2 延長 L1, L2	± 100 -20 -20 -200	施工延長 40m(測点間隔 25mの場合は 50m)につき 1 ヶ所、延長 40m(又は 50m)以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。 幅、厚さは 20 個につき 1 ヶ所測定。		3-2-3-17 管理基準及び規格値
						乱積	基準高▽ 延長 L ₁ , L ₂	± t /2 - t /2	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。	L ₁ L ₁ L ₁ + + + + + + + + + + + + + + + + + + +	
										t は根固めブロックの高さ	

-326-

¢≓	±±:	A-A-	Ŋ	++ 177	工任		扫 枌 法	油 宁 甘 淮		4年 冊	
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測定箇所	摘要	
3 土	$\begin{vmatrix} 2 \\ - \end{vmatrix}$	3 共	18		沈床工	基準高 ▽	±150	1 組毎 -		3-2-3-18	
木工	般施	通的				幅 w	±300		₩ w		
事共	工	工種				延 長 L	-200		~ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
通編											
77110									\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\		
									,		
3	2	3	19		 捨石工		-100	施工延長 40m(測点間隔 25mの場合は		3-2-3-19	
土木	一般	共通						50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき	w w		
工事	施	的工				幅 w	-100	2ヶ所。			
共通		種				延 長 L	-200		Res To		Œ
編											来册
											%管 3
3	2	3	22		階段工			1回/1施工箇所	т.	3-2-3-22	出来形管理基準及び規格値
土	_	共	22			幅 w	-30	1四/1加工画別	<u>L</u> →	3 2 3 22	;準]
木工	般 施 工	通的工				高 さ h	-30				なび
事共		工 種				長 さ L	-30		<u> </u>		規格
通編						段数	±0 段				猛
									w		
									<u>*</u>		
3	2	3	24	1	伸縮装置工			高さについては車道端部及び中央部付	200 G E V	3-2-3-24	
土木	一般	共	24		(ゴムジョイント)	据付け高さ	±3	近の3点	橋軸方向 ⑥ゴムジョイント部材の天端高さ	3 2 3 24	
エ	施	通的工			(コムショイント)	表面の凹凸	3	表面の凹凸は長手方向(橋軸直角方	③コンクリートの ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		
事共	エ	工種				仕上げ高さ	舗装面に対し 0~-2	一向)に 3mの直線定規で測って凹凸が 3mm 以下			
通編											
									据付け高:「例」と「例の設計値」との差分 仕上げ高:後打ちコンが有る場合「例」と「®」の差分、 後打ちコンが無い場合「例」と「®」の差分		
Ь		1							The second secon	1	ı

I -15 -327-

	編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所 摘 要	
	3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	29	1	側溝工 (プレキャストU型側 溝) (L型側溝工) (自由勾配側溝)	基 準 高 ▽	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50 m) につき 1 ヶ所、施工延長 40 m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。 「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工事編 計測技術(断面管理の場合)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	3-2-3-29	
						(管渠)	延 長 L	ー0.5% ただし 最大-200 最小-50	1ヶ所/1施工箇所 ただし、「3次元計測技術を用いた出 来形管理要領(案)舗装工事編 計測 技術(断面管理の場合)」の規定によ り管理を行う場合は、延長の変化点で 測定。		
	3 土 木 工	2 一 般 施	3 共 通 的	29	2	側溝工 (場所打水路工)	基準高▽	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50 m) につき1ヶ所、施工延長 40 m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所 につき2ヶ所。	1 w t ₂ 3-2-3-29	
	事共	工	工種				厚さ t ₁ , t ₂	-20	(C) C 2 7 M.	h ₁ h ₂	
I –	通編						幅 w	-30			
-18							高さ h ₁ , h ₂	-30	A library between to		
							延 長 L	ー0.5% ただし 最大ー200 最小ー50	1 施工箇所毎		
							勾 配	±0.5分			
	3 土 木 工	2 一般施	3 共通的	29	3	側溝工 (暗渠工)	基準高 ▽	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所。 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工につき 2ヶ所。	3-2-3-29	
	事共通編	工	工種				幅 W ₁ , W ₂	-50	「TS 等光波方式を用いた出来形管理要領(舗装工事編) (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	h h	
	が冊						深 さ h	-30	° ⊌ 0	w ₂	
							延 長 L L<20m L≧20m	-50 -100	1施工箇所毎 ただし、「3次元計測技術を用いた出 来形管理要領(案)舗装工事編 計測 技術(断面管理の場合)」の規定によ り管理を行う場合は、延長の変化点で 測定。		

-330**-**

	編	章	節	条	枝番	工	重	測定	項	目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
	3 土 木	2 一 般	3 共 通	30		集水桝工		基準	高	∇	±30	1ヶ所毎 ※は、現場打部分のある場合	to #	3-2-3-30
	工事共	施 工	的 工 種					※厚さ	t 1~	~ t 5	-20		W ₁ t ₄	
	通編							※幅	w ₁ ,	\mathbf{W}_2	-30			
								※高さ	h 1,	h 2	-30		h ₁ t ₅	
I 10	3 土木工事共通編	2一般施工	3 共通的工種	31		現場塗装工		涂	膜	厚	厚平均値は、目標 塗膜厚合計値の 90%以上。 b. 測定値の最小 値は、目標塗膜厚	塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは500m²とする。 1 ロット当たりの測定数は25 点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。ただし、1 ロットの面積が200m²に満たない場合は10m²ごとに1点とする。		3-2-3-31

	編	章	節	条	枝番	工種	測症	至 項	目	規格値	測	定	基	準	測	定	箇 所	摘要	
	3 土 木	2 一 般	4 基 礎	1		一般事項 (切込砂利)	幅		W	設計値以上	施工延長 40: 50m) につき 50m) 以下の	き1ヶ所	、延長 4	40m (又は	t2 7	Ĩ	Ĺ	3-2-4-1	
	土木工事共	施工	I			(砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	厚さ	t 1,	t 2	-30	2ヶ所。				ti T	2500	-		
	共通編						延	長	L	各構造物の規格値 による									
																			出来形管理基準及び規格値
- 	3	2	4 基	3	1	基礎工(護岸)	基準	1	∇	±30	施工延長 40: 50m) につき							3-2-4-3	世 基 4
.99	土木工事	般施工	卷			(現場打)		- 11]	w	-30	50m) につる 50m) 以下の 2ヶ所。 「3次元計》	りものは	1施工包	箇所につき	▼		—		■及び
	共通	工					高	オ	h	-30	要領(案) 記 測点の管理	護岸工事:	編」の規	見定による		\bigcap	h		規格値
	編						151		11		る。								
							延	長	L	ー0.5% ただし 最大-200 最小-50									
	3 土	2	4 基	3	2	基礎工(護岸)	基準	自高	∇	±30	施工延長 40: 50m) につき	き1ヶ所	、延長4	40m (又は				3-2-4-3	
	土木工事共通編	般施工	一礎 工			(プレキャスト)	延	長	L	-0.5% ただし 最大-200 最小-50	50m) 以下の 2ヶ所。 「3次元計》 要領(案)記 測点の管理 る。	りものは 側技術を 襲岸工事	1 施工管 用いた 編」の 規	箇所につき 出来形管理 見定による					

I - 22 -334

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工種	泪		規格値	測	定	基準		測	定	籄	所	単位:mm 摘 要
3	2	4	3	3	基礎工(護岸)	129								ı Æ	凹	121	3-2-4-3
		基			(吊込基礎ブロック)	基	基 準 高 ▽	±50	施工延長 40m 50m) につき 50m) 以下の	1ヶ所、 ものは1	延長 40m 1 施工箇所	i(又は につき			4		
土木工事共通編	般施工	礎 工				幅	$\mathbf{W}_{1}, \mathbf{W}_{2}$	-30	2ヶ所。			_			İΤ		
通編						高さ	h < 3 m	-50							h		
						h	h ≧ 3 m	-100						<u></u>	<u> </u>		
							一個の長さℓ	-20						W2			
							勾 配	±0.5分									
						沒	去線方向の出入	±50									
						<u>ت</u>	近 長 L	ー0.5% ただし最大 ー200 最小ー50									

	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
	3 土 木	2 一 般	4 基 礎	9		鋼管矢板基礎工	基 準 高 ▽	±100	基準高は、全数を測定。 偏心量は、1 基ごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	3-2-4-9
	工事共	施 工	工				根入長	設計値以上			
	通編						偏心量d	300 以内			
										y ⊥ v d	
ŀ	3 土 木	2 一 般	5 石	3	1	コンクリートブロック エ	基 準 高 ▽ 舗装面と接する場合	±50 ±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき	t ₁ t ₂	3-2-5-3
	八工事共	施工	ブロック			(コンクリートブロッ ク積) (コンクリートブロッ	ℓ<3m 法長ℓ	-50	2 ヶ所。厚さは上端部及び下端部の2 ヶ所を測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理		
	通編		積 (張)			ク張り)	ℓ≧3m	-100	要領 (案) 護岸工事編」の規定による 測点の管理方法を用いることができ る。	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
1 —26			エ				厚さ (ブロック積張) t ₁	-50			
20							厚さ(裏込) t ₂	-50		t ₁	
							勾 配	±0.5分			
							延 長 L	-0.5% ただし 最大-200 最小-50			
	3 土 木	2 一 般	5 石・ブ	3	2	コンクリートブロック 工	基準高▽	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき	Li	3-2-5-3
	工事共	施 工	ノロック			(連節ブロック張り)	法 長 0	-100	2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)護岸工事編」の規定による		
	通編		積 (張				勾 配	±0.5分	測点の管理方法を用いることができ る。		
			I				延 長 L ₁ , L ₂	ー0.5% ただし 最大ー200 最小ー50		L ₂	

I -26
-338-

	編	章	節	条	枝番	工 種	測定	項目	規格値	測	定基	準	測	定 箇 所	単位: mm 摘 要	1
}	3 土	2	5 石	3	3	コンクリートブロック 工	基準	高 ▽	±50	施工延長 40m 50m) につき				w ∗——∗	3-2-5-3	1
	木工	般 施	・ブロ			(天端保護ブロック)	幅	W	-100	50m) 以下の 2ヶ所。	のは1施コ	L箇所につき	//			
	事共通編	工	1ック積(張)工				延	長 L	ー0.5% ただし 最大-200 最小-50	「3次元計測 要領(案)護 測点の管理方 る。	岸工事編」∂	D規定による		間詰かご W	,	
	3 土 木	2 一般:	5 石 ・ブ	4		緑化ブロック工		高 ▽ 接する場合	±50 ±30	施工延長 40m 50m) につき 50m) 以下の	l ヶ所、延長 のは1施コ	長 40m (又は □箇所につき	tı tz		3-2-5-4	
	工事共	施 工	ロッ				法長ℓ	0<3m	-50	2ヶ所。厚さり ケ所を測定。 「3次元計測技			2 & /			
	班通編		ク 積				12.22	ℓ≧3m	-100	要領 (案) 護婦 関点の管理方法	岸工事編」∅	D規定による		1 t1	t ₂	米出
	///на		張				厚さ(ブロ	コック) t ₁	-50	る。 	-, -, 1, 1		t ₁ t ₂		~) 管理
٦			工				厚さ(裏	込) t ₂	-50							基基
97							勾	配	±0.5分				t ₁			华及
							延	長 L	ー0.5% ただし 最大ー200 最小ー50				d1046			出来形管理基準及び規格値
	3 土 木	2 一 般	5 石・i	5	1	石積(張)工		高 ▽ 接する場合	±50 ±30	施工延長 40m 50m) につき 50m) 以下の	l ヶ所、延長	長40m (又は	7	\tag{t_1 t_2}	3-2-5-5	
	工事	施 工	ブロッ				法長 0	ℓ<3m	-50	2ヶ所。厚さり ケ所を測定。				Ă	<i>""</i>	
	共通		ク 積				ZZ V	0 ≧ 3 m	-100	「3次元計測技 要領(案)護権 測点の管理方法	岸工事編」∂	D規定による	/			
	編		張				厚さ(石積	責・張) t ₁	-50	る。	7.5/111.2.9					
			工				厚さ(裏記	<u>入</u>) t 2	-50				711111			
							勾	配	±0.5分				,	t ₂		
							延	長 L	ー0.5% ただし 最大ー200 最小ー50					- C2		

I - 27 -339-

														単位:	mm
									規	各値					
ń	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		測定値 ()	の平均 *面管理 は測定)測定値 匀(X10) 里の場合 で値の平 対	測 定 基 準 測 定 箇 所		摘要	
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下				
±	3 上 木	2 一般於	6 一般	7	2	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	_	_	1. 3次元データによる出来形管理に おいて「3次元計測技術を用いた出来 や管理要領(案)舗装工事編 多点計 則技術(面管理の場合)」に基づき出 関技が(面管理の場合)」に基づき出	いは基	3-2-6-7	
事步	工事共通	施 工	舗装工			(面管理の場合)	厚さあるい は標高較差	±90	±90	+40 -15	+50 -15	来形管理を実施する場合、その他本基 500 t 以上の場合が該当する。 準に規定する計測精度・計測密度を満 小規模工事とは、中規模以」 たす計測方法により出来形管理を実施 より規模が小さいもの。			
新 つつつ	三 桶											する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さから求まる高さとの差とする。			出来形管理基準及び規格値

単位: m

_																							単	位:mm	<u>i</u>
										規	各値														
	編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	個々の ()		の平均 *面管理 は測定	測定値 タ(X10) 里の場合 値の平 성	;	測	定	基	準		測	定	箇	所	摘	要	
	0	0	G	7	2	777			中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下	izu w	· E 40	. 41=		odul)	~ + 4	3 L#* +	v > -l-			2.0.6	7	
	3 土木	2 一般	6 一 般	7	3	(上層路		厚さ	-25	-30	-8	-10	(最少2 に1ヶ所	ヶ所を掘) 、厚 り起こ	さは各して測	定(最少3	乗 中規 の施コ	二面積か	の工事 § 2,000	m2 以_	1層あたり 上あるいは基	3-2-6-	7	
	工事共	施 工	舗装工			粒度調整過	路盤工	幅	-50	-50	_	_		延長	40m 以		図書の測点 隔で測定す	500 t	以上の	場合が記	該当す	総使用量が、 る。 莫以上の工事			
	通編																	厚さ	らは、個		定値	ド 10 個に 9 満足しなけれ			
																		平均值	(X10) につ	いて清	個の測定値の 記足しなけれ さのデータ数			
																		が 10	個未満目しない	の場合は	は測定	値の平均値			
_																									H K
_31																									7 国 荘
																									操作
																									ダウキ
																									出米形官埋奉準及ひ規格順
																									"
													l										1		1

												単位:mm	_
								規	各値				
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		測定値 X)	の平均 *面管理 は測定)測定値 タ(X10) 星の場合 値の平 タ	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘要	
a 土木工事共通編 3 土木工事共通編	章 2一般施工	節 6 一般舗装工	条 7	枝番	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	測定項目	()		の平均 *面管理 は測定	タ(X ₁₀) 理の場合 値の平 タ 小規模 以下		摘 要	出来形管理基準及び規格値

													里似:mm	
									規格	各値				l
	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		測定値 ()	の平均 *面管理	図の場合 値の平	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘要	
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
	3 土 木	2 一 般	6 一 般	7	5	アスファルト舗装工 (上層路盤工)	厚さ	-25	-30	-8	-10	福は、延長 40m毎に1ヶ所の割とし	-2-6-7	
	工事	施工	舗装			セメント (石灰) 安定処理工	幅	-50	-50	_	_	こして測定(最少3ヶ所)。ただし、 層および表層用混合物の総使用量が、 幅は設計図書の測点によらず延長40m 500 t 以上の場合が該当する。		
55 1	共通編		I									以下の間隔で測定することができる。 「規模工事とは、中規模以上の工事より規模が小さいもの。厚さは、個々の測定値が10 個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアーの採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れがある場合は、他の方法によることができる。		出来形管理基準及び規格値

			1			1					甲位:mm	
編	幸	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の ()	測定値	の平均 *面管理)測定値 タ(X10) Eの場合 値の平	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要	
3	2	6	7	6	アスファルト舗装工	E La y	中規模以上	小規模以下		匀	1. 3 次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 3-2-6-7	
5 土木工事共通編	2一般施工	6 一般舗装工			(上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工 (面管理の場合)	厚さある較差	-55	-64	-8	-10	おいて「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)舗装工事編 多点計 測技術(面管理の場合)」に基づき出 飛形管理を実施する場合、その他本基 準に規定する計測精度・計測密度を満 たす計測方法により出来形管理を実施 する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精 度として生10mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を質出する。計測密	出来形管理基準及び規格値

_																	単位:mm	_
									規	各値								
	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目		測定値	の平均 *面管理 は測定	測定値 対(X10) 理の場合 値の平 対	測	定	基	準	測 定 箇 所	摘要	
								中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下							
	3 ±	2 —	6 —	7	7	アスファルト舗装工	厚さ	-15	-20	-5	-7	幅は、延長 40 (最少 2 ヶ所) 、厚	さは、	1,000 m²に1	中規模以上の工事とは、1層あたり	3-2-6-7	
	木工事	般 施 工	般舗装			(加熱アスファルト 安定処理工)	幅	-50	-50			個の割でコア 3個)。ただ によらず延長	し、幅 40m以	は設計	図書の測点	の施工面積が 2,000m2 以上あるいは基層および表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。		
I — 35	共通編		H									ることができ	వ .			小規模工事とは、中規模以上の工事より規模が小さいもの。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアーの採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れがある場合は、他の方法によることができる。		出来形管理基準及び規格値

					_														単位:mm	<u>. </u>
							規	格値												
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の測定値 (X)	10 個の の平均 *面管理 は測定f	J(X10) !の場合 値の平	測	定	基	準	i	測	三 笛	所	推	更 要	
	2 -	節 6 一般舗装工	条 7	枝番 8	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工) (面管理の場合)	測定項目		の平均 *面管理 は測定f *数 * 中規模 以上	J(X1o) の場合 値の平 小規模 -7	1 お形測来準たす 2 度 3 全度以 4 の 5 合高さ 3 て理術管規計場 個し 計の1 と 厚高 厚、差の 5 合高さ はと を下均と はと を下均と まん	「一元案理施計に用 測皿 計高(直差 高の上 と 1)のす測よす 値が 幅値平 下で 較目設に測鵠場る精りる の含 員を面 層算 差標手具	よ支表合昜を出 見ま の章殳 の出 と高る術工)合・来 格れ 内出影 標す しさいか しき しょう	・ 来用編にそ側管 にい 全る債 値。 評直形い 基の密理 はる 面。当 と 価下管た多づ他度を 計。 と計た 当 す層理出点き本を実 測 し測り 該 るのに来計出基満施 精 、密) 層 場標	工事規模 中規模 の施工面 層およひ 500 t 以	で の考え 以上のコ i積が 2, i表層用 上の場合 との事と	方 こ事とは、 000m2 以 混合物当っ は、中規	1 層あたり 上あるいは基 総使用量が、	3-2-6		出来形管理基準及び規格値 出来形管理基準及び規格値

												単位:mm	_
								規	各値	Note that the			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目		測定値 X)	の平均 *面管理 は測定	測定値 匀(X10) 里の場合 I値の平 匀	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘要	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
3 土 木	2 一 般	6 一 般	7	9	アスファルト舗装工 (基層工)	厚き	-9	-12	-3	-4	(最少2ヶ所)、厚さは、1,000㎡に1 中規模以上の工事とは、1層あたり 固の割でコアーを採取して測定(最少 の施工面積が2,000m2以上あるいは基	2-6-7	
工事共	施工	舗装工				幅	-25	-25	_	_	3個)。ただし、幅は設計図書の測点 こよらず延長 40m以下の間隔で測定す ることができる。		
共通編		I									ることができる。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模が小さいもの。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。		出米形官埋奉準及ひ規恰個
													※ 公然日间

I -37 -349-

														単位::	
									規材	各値					
編	Ħ	章	節	条	枝番	工種	測定項目		測定値		J(X10) Mの場合 値の平	測 定 基 準 測 定 箇	所	摘要	
		0	C	7	10			中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			0.0.6.7	
37 土木工事共通編		2 一般施工	6一般舗装工	7	10	アスファルト舗装工(基層工)	厚さあるいは標高較差	-20	-26	-3	-4	1. 3次元データによる出来形管理に 「3次元計測技術を用いた出来 ※官理要領 (案) 舗装工事編 多点計削技術 (面管理の場合)」に基づき出版 (工事規模以上の工事とは、1 の施工面積が 2,000m2 以上 を	っるいは基 5用量が、 0 人上の工事	3-2-6-7	出来形管理基準及び規格値

																						半	立:mm	_
										規格]
編	THE TOTAL PROPERTY OF THE PROP	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目		測定値 X)	の平均 *面管理 は測定	測定値 タ(X10) 星の場合 値の平 タ	測	定	基	準		測	定	箇	所	摘	要	
									中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下												
3 土 木	-	2 一 般	6 一 般	7	11	アスファルト (表層工)	卜舗装工	厚さ	-7	-9	-2	-3	幅と横断勾配 の割とし(最 1,000 ㎡に1	少2ヶ	所)、	厚さは、	中規	草以上0	の工事	とは、)m2 以	1層あたり 上あるいは基	3-2-6-7	,	
工事	- - - - -	施工	舗装工					幅	-25	-25	_	_	測定(最少3 図書の測点に 隔で測定する	: 個)。 :よらず	ただし 延長 40	、幅は設計)m 以下の間	層およ 500 t J	び表層以上の場	用混合	う物の糸 該当す	&使用量が、			
通編	É							横断勾配	±1.	. 0%		l					より規 厚さ	模が小は、個	さいも 々の測	っの。 則定値が	ド 10 個に 9 満足しなけ			
								平坦性	-		3mプロフ. (σ)2.4 下直読ま き) (σ)1.7 以下	mm 以 弌(足付					れ値け一の ゴのれ が 平 で 橋等、 維持 で 本 で れ の れ の れ の れ の れ の れ の れ の れ の れ の れ の れ の に に 。 に の に 。 。 。 に 。 。	な均なが値 な対値 がが値 取装傷方 は に等を法	いと X 10) (X 10) に が個 大 に に に に に に に に に に に に に	もにだめな ことろこ はにつし場。 採りな	10 個の測しで 同の足の定 は は は は は は は は は は は は は			出来形管理基準及び規格値

I -39 -351-

								規	各 値		平位:mi
編	章	節	条	枝番	工工種	測定項目)測定値 X)	の平均 *面管理 は測定)測定値 匀(X10) 里の場合 で値の平 対	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
3	2	6	7	12	アスファルト舗装工	E Start	中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下	1. 3 次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 3-2-6-7
土木工	一般施	般舗			(表層工)	厚さあるいは標高較差	-17	-20	-2	-3	おいて「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)舗装工事編 多点計 測技術(面管理の場合)」に基づき出 層および表層用混合物の総使用量が、
事共通	Ĭ	装工			(面管理の場合)	横断勾配	±1.	. 0%	3m ブ゜ロフ.	イルメーター	来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施より規模が小さいもの。
編						平坦性	-	_	(σ)2.4 下直読ュ き) (σ)1.7 以下	式(足付	する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。
I -40											4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。
3 土 木	2 一 般	6 一 般	8	1	半たわみ性舗装工(下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	_	_	基準高、幅は延長 40 m毎に 1ヶ所の割 工事規模の考え方 とし、道路中心線及び端部で測定。 中規模以上の工事とは、1層あたり (最少 2 ヶ所) の施工面積が 2,000m2 以上あるいは基
工事	施工	舗装工				厚さ	-45	-45	-15	-15	厚さは各車線 200m毎に1ヶ所(最少3 層および表層用混合物の総使用量が、 ヶ所)を掘り起こして測定。 500 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事
通編						幅	-50	-50	_	_	延長 40m 以下の間隔で測定することが より規模が小さいもの。 できる。

-352-

_												手匹	
希	褔	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規 相 測定値 X)	の平均 *面管理 は測定		測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要	
- - - - - - - - - - - - - -)	3 七木工事共通扁	2一般施工	6一般舗装工	8	2	半たわみ性舗装工(下層路盤工)(面管理の場合)	基準高▽ 厚さあるい は標高較差	中規模 以上 ±40 ±90	小規模 以下 ±50 ±90	中規模 以上 一 +40 -15	•	1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計則技術(面管理の場合)」に基づき出版形管理を実施する場合、その他本選性に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の標高を当まとの差とする。	出来形管理基準及び規格値
- - - - - - - - - - - - - -))	3 土木工事共通扁	2一般施工	6 一般舗装工	8	3	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ幅	-25 -50	-30 -50		-10 	福は、延長 40m毎に1ヶ所道路中心 線・端部で測定。(最少2ヶ所) 厚さは、各車線200m毎に1ヶ所(最少 3ヶ所)を掘り起こして測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず 延長40m以下の間隔で測定することが できる。 工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたり の施工面積が2,000m2以上あるいは基層および表層用混合物の総使用量が、 500 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事 より規模が小さいもの。	び規格値

I -41 -353-

_													里位:mm
									規格	各 値			
	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の ()		の平均 *面管理 は測定		測定基準測定箇所	摘要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下		
I - 42	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	4	半たわみ性舗装工(上層路盤工)粒度調整路盤工(面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-55	-64	-8		1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本を満定に規定する計測精度・計測密度を実施する場合に適用する。2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高を当上ので標高値を設計して表現を開発して表現を表現を表現して表現を表現して表現を表現を表現して表現を表現して表現を表現して表現を表現して表現を表現して表現を表現して表現を表現して表現を表現して表現を表現して表現を表現して表現を表現して表現を表現して表現を表現を表現して表現を表現して表現を表現を表現して表現を表現を表現を表現して表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表	-6-8
	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8		半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰)安 定処理工	厚さ幅	-25 -50	-30 -50		-10	幅は、延長 40m毎に1ヶ所の割とし (最少2ヶ所)、厚さは、1000㎡に1 個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。ただし最少3個 ただし、幅は設計図書の測点によらず 延長 40m以下の間隔で測定することができる。 工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたり の施工面積が2,000m2以上あるいは基層および表層用混合物の総使用量が、500 t以上の場合が該当する。 小規模が小さいもの。 コア一採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	-6-8

I -42
-354-

	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	想々の測定 (X)	定値 *	10 個の の平均 面管理 は測定f 均	i(X ₁₀) の場合 値の平	測 定	基	: 準	測 定 箇 所	摘 要	
I-43	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	6	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰)安 定処理工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	以上以		中規模以上 -8		1. い管技形測来準たす 2度 3 全度以 4の 標層値 マース差の はと を下均と では上 標 は較と のす測よす 値 さ直平差 3 に対して 変に	沖舗場の精りる の含 員を	所を用編にそ測管にいい。 主事にそ別管にいい。 主事にそ別管にいい。 全の密理にいるでである。 はるではるである。 はるではるである。 はるではるである。 はいではるである。 はいではないではないである。 はいではないではないではないである。 はいではないではないではないではないではないではないではないである。 はいではないではないではないではないではないではないではないではないではないでは	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたりの施工面積が2,000m2以上あるいは基層および表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。小規模工事とは、中規模以上の工事より規模が小さいもの。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	3-2-6-8	出来形管理基準及び規格値
	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	7	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚さ幅		-20	_5 _		幅は、延長 40m名 (最少2ヶ所)、 個の割でコアー し最少3個 ただし、幅は設計 延長 40m以下の間 できる。	厚さに 採取し 図書の	t、1000 ㎡に1 ンて測定。ただ)測点によらず	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたり の施工面積が2,000m2以上あるいは基層および表層用混合物の総使用量が、 500 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模が小さいもの。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	3-2-6-8	各値

— 355 —

												T 122 • 111111
	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 が 関本の測定値 (X) 中規模 小規模 以上 以下		· 測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
I-44	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	8	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-37 -46	以上 -5 -7	1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた点点計測技術を用いた点点計測技術を用の場合)」に基づる場合、との他を連び出来形管理を実施する場合、計測をで理を実施をする場合に適の規格値には引きる。 2. 個々の計測値の規格値には計測をする場合に適の規格値にいる。 3. 計測は設計幅員の内側全面と削別をで要は1点/m2(平面投影面積当たり)は、方面に変には1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚直をは、直で算出する。 4. 厚直を標高値との禁高値との標高をは1点が変にでがある。 5. 厚さを標高較差として評価する場合、厚直下層の目標高を引きる。 5. 厚さを標高可目標高を引きる。 5. 厚さを標高を開いて対している。 6. 厚さを標高を見いている。 6. 厚さを標高を見いている。 7. 厚さは、直で算出する。 6. 厚さを標高を見いている。 7. 厚さとが表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたり の施工面積が2,000m2以上あるいは基層および表層用混合物の総使用量が、 500 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模が小さいもの。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	3-2-6-8
	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	8	9	半たわみ性舗装工(基層工)	厚さ幅	-9 -12 -25 -25	-3 -4 - -	幅は、延長 40m毎に 1ヶ所の割とし (最少 2ヶ所)、厚さは、1000 ㎡に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただ し最少 3 個 ただし、幅は設計図書の測点によらず 延長 40m以下の間隔で測定することが できる。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたり の施工面積が2,000m2以上あるいは基 層および表層用混合物の総使用量が、 500 t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模が小さいもの。 コア一採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目 を省略することが出来る。	3-2-6-8

I -44 -356-

	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		規 ^材 測定値 X)	の平均 *面管理 は測定)測定値 タ(X10) 世の場合 値の平 匀	測 ;	定	基	準	測	定	筃	所		摘要	
I-45	3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	8	10	半たわみ性舗装工(基層工)(面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	中規模以上 -20	小規模 以 -26	中規模以上 -3	小規模以下 -4	1. いででは、 1. いででは、 2. 皮 3. では、 3. で理術管規計場 個し 計の1と 厚高 厚、差の 3. では上 原高 厚、差の 4. で 2. 皮 4. で 2. と で 2. と で 3. と で 2. と で 3. と で 4. で 2. と で 3. と で 4. で 2. と で 4. で 2. と で 4. で 3. と で 4. で 4. で 4. で 5. と で 4. で 4. で 5. と で 4. で 5. と で 6. と で 5.	計)のす測よす 値が 幅値平 下で 較目設測舗場る精りる の含 員を面 層算 差標計技装合場度出。 規ま の算投 の出 と高厚	を得了) 合き・3 2 2 4 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	用編こそ則管 こい 全る責 直 評直い 基の密理 はる 面。当 と 価下れらさ本を実 測 し測り 該 るの出点き本を実 測 し測り 該 るの標 と計た 当 す層 場標	工事規模の層が 事規模面で上が 方の1 大きの1 大きの1 大きの1 大きの1 大きの1 大きの1 大きの1 大き	の工事 2,000 用混合 湯合が は、中 いもの	m2 以」 r物の彩 該当す 現模り こは、「	上あるい 総使用 る。 以上の 下 型性(ハは基 量が、 工事よ	3-2-6-8	出来形管理基準及び規格値
	3 土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	8	11	半たわみ性舗装工(表層工)	厚 さ 幅 平 坦性	-7 -25	-9 -25 - ±1.	-2 -3m ブロフ (σ)2.4 下直読ま き) (σ)1.7 以下	mm 以 弌(足付	幅と横断勾配は の割とし(最少 1000 ㎡毎に1値 て測定。ただし、 ただし、幅はり 延長 40m以 できる。	2ヶ所 間の割で 最少3 計図書	f)、「 でコア i 個 i の測」	厚さは、 一を採取し 点によらず	工事規模以前を 100 年 100	の工事の2,000 5 2,000 5 月用混合 5 1 日本 5 1	m2 以 が が が が が が が が が が が が が	上あるい 総 を は な に なる。 に なる。 世 性 は は は は は は は は は は は は は	ハは基 工事よ り 床 は 、	3-2-6-8	各値

-357-

_														平匹	
									規格	各 値					
	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の? (X		は測定		測 定 基 準 測	定 箇 所	摘要	
		0	0	0	10	No. 2 of Abrillance		中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	以下]
	3 土 木	2 一 般	6 一 般	8	12	半たわみ性舗装工 (表層工)	厚さあるい は標高較差	-17	-20	-2	-3	理要領(案)舗装工事編 多点計 の施工面積が	え方 の工事とは、1層あたり 、2,000m2 以上あるいは基	3-2-6-8]
	工事共通編	施工	舗装工			(面管理の場合)	平坦性	_	_	3mブロフ (σ)2.4 下直読ュ き) (σ)1.7	mm 以 大(足付	管理を実施する場合、その他本基 規定する計測精度・計測密度を満 計測方法により出来形管理を実施 場合に適用する。			
										以下		/m	だいては、平坦性の項目 とが出来る。		
							横断勾配		±1.	. 0%		計測は設計幅員の内側全面とし、 の点で標高値を算出する。計測密 1点/m2(平面投影面積当たり)]
I												とする。			E
- 46												高値との差で算出する。 厚さを標高較差として評価する場			Į Į
												学さを標高数差として計画する場 、直下層の目標高さ+直下層の標 差平均値+設計厚さから求まる高 の差とする。			
															70 22611
•	3 土 木	2 一 般	6 一 般	9	1	排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	_			え方 の工事とは、1層あたり 52,000m2 以上あるいは基	3-2-6-9	Ī
	工事共	施工	舗装工				厚さ	-45	-45	-15	-15	は各車線 200m毎に 1ヶ所を掘り起 層および表層 て測定。 (最少 3ヶ所) 500 t 以上の]
	通編						幅	-50	-50	_	_	(最少2ヶ所) し、幅は設計図書の測点によらず り規模が小さ			
												る。を省略するこ	とが出来る。		
L															

-358**-**

	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の ()		の平均 *面管理 は測定	測定値 g(X10) dの場合 値の平 均	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要	
I-47	3 土木工事共通編	2一般施工	6 一般舗装工	9	2	排水性舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	基準高▽厚さあるいは標高較差	中規模 以上 ±40 ±90	小規模 ±50 ±90	中規模 以上 - +40 -15	以下	1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来	出来形管理其淮及7\知格值
	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	9	3	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚さ幅	-25 -50	-30 -50	_8 	-10 -	福は、延長 40m毎に1ヶ所の割とし、 道路中心線・端部で測定。(最少2ヶ 所) 厚さは、各車線 200m毎に1ヶ所(最少 3ヶ所)を掘り起こして測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず 延長 40m以下の間隔で測定することが できる。 工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたり の施工面積が 2,000m2 以上あるいは基 層および表層用混合物の総使用量が、 500 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模が小さいもの。 維持工事においては、平坦性の項目 を省略することが出来る。	<u>, id</u>

-359-

		1			1	_	ı	1				Г		₽似:㎜
									規格	各値				
	編	章	節	条	枝番	工工種	測定項目		測定値 X)	の平均 *面管理 は測定	測定値 タ(X10) 星の場合 値の平 タ	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
								中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
I - 48	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	9	4	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さあるい	-55	-64	-8	-10	1. 3次元データによる保証を開出を開出を表示である。 3次元データによる保証を開いた点点を開いて、一身に対して、一身に対して、一身に対して、一方のでは	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたりの施工面積が2,000m2以上あるいは基層および表層用混合物の総使用量が、500 t以上の場合が該当する。小規模工事とは、中規模以上の工事より規模が小さいもの。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	3-2-6-9
	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	9	5	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安 定処理工	厚さ幅	-25 -50	-30 -50		-10 -	幅は、延長 40m毎に1ヶ所の割とし (最少2ヶ所)、厚さは、1000 ㎡に1 個の割でコアーを採取もしくは掘り起 こして測定。ただし最少3個 ただし、幅は設計図書の測点によらず 延長 40m以下の間隔で測定することが できる。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたり の施工面積が2,000m2以上あるいは基層および表層用混合物の総使用量が、 500 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模が小さいもの。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	3-2-6-9

-360-

-														<u> 単似:mm</u>	
									規	各値					
	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		測定値 ()	の平均 *面管理 は測定	測定値 タ(X10) 星の場合 値の平 성	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要	
								中規模 以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下				
I - 49	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	9	6	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安 定処理工 (面管理の場合)	厚さあるいた。	-55	-64	-8	-10	測技術(面管理の場合)」に基づき出 来形管理を実施する場合、その他本基	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたりの施工面積が2,000m2以上あるいは基層および表層用混合物の総使用量が、500 t以上の場合が該当する。小規模工事とは、中規模以上の工事より規模が小さいもの。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	3-2-6-9	出来形管理基準及び規格値
	3	2	6	9	7	排水性舗装工				I		幅は、延長 40m毎に 1 ヶ所の割とし	工事規模の考え方	3-2-6-9	各値
	土木	一般	一般	3	•	(加熱アスファルト	厚さ	-15	-20	- 5	-7	(最少2ヶ所)、厚さは、1000 ㎡に1 個の割でコアーを採取して測定。	中規模以上の工事とは、1層あたり の施工面積が2,000m2以上あるいは基	0 2 0 3	
	工事共通	施工	舗 装 工			安定処理工)	幅	-50	- 50	_	_		層および表層用混合物の総使用量が、 500 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事よ り規模が小さいもの。		
	· 編												コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目 を省略することが出来る。		

-361**-**

						ı	1					1	平江
								規	各値				
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		測定値 X)	の平均 *面管理 は測定)測定値 対(X10) 理の場合 で値の平 対	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下			
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	9	8	排水性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるい差	-37	-46	-5	-7	1. 3次元データによる出来形管理において「多次元データによる情報を開いた点点を開いた点点を開いて、大学を開始を開始を開始を開始を開始を開始を表して、大学を表します。 2. 個々の計測値の規格値にはおり、といるのは、自然を表して、も、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、も、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、自然を表して、ものないる、もののの、もののの、ものののののののののののののののののののののののののの	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたり の施工面積が2,000m2以上あるいは基層および表層用混合物の総使用量が、 500 t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模が小さいもの。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	3-2-6-9
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	9	9	排水性舗装工 (基層工)	厚さ幅	-9 -25	-12 -25	-3 -	-4 -	幅は、延長 40m毎に1ヶ所の割とし (最少2ヶ所)、厚さは、1000㎡に1 個の割でコアーを採取して測定。ただ し最少3個 ただし、幅は設計図書の測点によらず 延長 40m以下の間隔で測定することが できる。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、1層あたり の施工面積が2,000m2以上あるいは基 層および表層用混合物の総使用量が、 500t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事よ り規模が小さいもの。	3-2-6-9
луны												コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目 を省略することが出来る。	

-362-

現場							T	•					
日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本										規	各 値		
3 2 6 9 10 排水性離衰工		編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目			の平均 *面管理 は測定	タ(X10) 星の場合 値の平	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
上													
3	I - 51	土木工事共通	一 般 施	一般舗装	9	10	(基層工)		-20	-26	-3	-4	おいて「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)舗装工事編 多点計 測技術(面管理の場合)」に基づき出 来形管理を実施する場合、その他本基 準に規定する計測精度・計測密度を満 たす計測方法により出来形管理を実施 する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として生4mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密
下直読式(足付き) (σ)1.75mm 以下 平 坦 性 — 以下 「本面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。		土木工事共	一 般 施	一般舗装	9	11	·				_		幅と横断勾配は、延長 40m毎に1ヶ所 の割とし(最少2ヶ所)、厚さは、 1000 ㎡毎に1個の割でコアーを採取し で測定。ただし最少3個 ただし、幅は設計図書の測点によらず 延長 40m以下の間隔で測定することが
(東)(所名)(11.0%)									_	_	下直読式 き) (σ)1.7 以下	弋(足付	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目
								横断勾配		±1.	. 0%		

-363-

_																					単位:	
										規	咯 値											
	編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目)測定値 X)	の平5 *面管5 は測定	○測定値 匀(X ₁₀) 里の場合 ぎ値の平 均	測	定	基	準	測	定	笛	所	摘要	
I —52	# 3 土木工事共通編	早 2一般施工	即 6 一般舗装工	条 9		非水性舗装工(表層工)(面管理の場合		関定場単さあ高較単 性横断勾配	中規模以上 -17	小規模 以下 -20	は測定 中規模 以上 -2 3mプロフ (σ)2.4	を値の平 小規模 以下 -3 -3 -3 -3 -3 -3 -3 -3 -1 -1 -3 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1 -1	1お形測来準たす 2度 3全度以 4の 5合次「要(理定測合 々て 測点点す さ値 さ直では上 . 標 . は では上 . 標 . は では上 . 標 . は で . で . で . で . で . で . で . で . で .	に3.真面を上げて つと はで/ 5. はこ を下りて で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	は は で	来用編にそ測管 にい 全る積 値で来計出基満施 精 、密) 層	工事規模の中規模以上の施工面積表 500 t 以上の小規模工事り規模が小	考え方 の工事が2,000 層用混合 場合が とは、中 とさいもの こおいて	とは、、)m2 以 か 合物当ず 対規模 い こ は、 ³	1層あたり 上あるいは基 念使用量が、 る。 以上の工事よ 平坦性の項目	调 安 3-2-6-9	

-364-

Γ									規格	 各 値									
	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目		測定値 X)	測定値の平均	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上									
	3 土 木	2 一 般	6 一般	10	1	透水性舗装工(路盤工)	基準高▽	土	50		基準高、幅度の割で測定。 原さは、片便	(最少	2ヶ所)	工事規模の表 中規模以上 の施工面積が	の工事			3-2-6-10
	工事共	施 工	舗 装 工				厚さ	t < 15cm	-30	-10	少3ヶ所) る ただし、幅 延長 40m 以	を掘り起 は設計図	こして	測定。 点によらず	帰工面積が 層および表層 500 t 以上の 小規模工事と	引用混合 場合が	î物の総 該当す	総使用量が、 る。	
	通編						7	t ≧ 15cm	-45	-15	できる。 ※歩道舗装り			, , , ,	り規模が小さ	いもの)。		
							幅	-:	100	_	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	2/14/	90		維持工事は目を省略する				
	3 土 木	2 一 般	6 一 般	10	2	透水性舗装工(路盤工)	基準高▽	±	50	_	1. 3次元 おいて「3 形管理要領	欠元計測 (案)舗	技術を 装工事	用いた出来編 多点計	工事規模の表 中規模以上 の施工面積が	の工事			3-2-6-10
	工事共	施 工	舗 装 工			(面管理の場合)	厚さあるい	t < 15cm	-64	-10	測技術(面管 来形管理を 準に規定する	実施する る計測精	場合、 度・計	その他本基 測密度を満	層および表層 500 t 以上の 小規模工事と	層用混合 場合が ☆は、中	う物の総 該当す 現模以	総使用量が、 る。	
٦	通編						は標高較差	t ≧ 15cm	-91	-15	たす計測方法する場合に近2.個々の記	箇用する 計測値の	。 規格値	には計測精	り規模が小されます。	こおいて	。 :は、3		
ם כ											度として±1 3. 計測は記 全ての点で	受計幅員 票高値を	の内側 算出す	全面とし、 る。計測密	目を省略する	らことか	ド出来る	5.	
											度は1点/m 以上とする。 4. 厚さは、								
											の標高値との 5. 厚さを植 合は、直下属	票高較差	として	評価する場					
											高較差平均値さとの差とつ		厚さか	ら求まる高					
											※歩道舗装/	こ適用す	る。						
L]	<u> </u>				<u> </u>								

I —53 —365—

出来形管理基準及び規格値

								規格	各 値										<u> </u>
	編	章	節	条	枝番	工工種	測定項目	個々の測定値 (X)	測定値の平均	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
								中規模 以上小規模 以下	中規模 以上										
	3 土 木	2 一 般	6 一 般	10	3	透水性舗装工 (表層工)	厚さ	- 9	-3	幅は、片側延 測定。 厚さは、片側				工事規模の 中規模以上 の施工面積	の工事			3-2-6-	-10
	工 事 共	施 工	舗装工				幅	-25	_	ーを採取して ただし、幅は 延長 40m 以下	測定。 設計図	書の測り	点によらず	層および表属 500 t 以上の 小規模工事	暑用混合 場合が	計物の総 該当す	総使用量が、 る。		
	通編		4				横断勾配	±1.	, ·	できる。 ※ 歩道舗装に			, 5	り規模が小るコアー採取し	さいもの)。	ハエッエする		
										次少担舗表 に	週用 9	ବ			等でコラ テえるを	アー採取 いれのあ			
														維持工事にを省略するこ			区坦性の項目		
I - 54	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	10	4	透水性舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差横断勾配	-20 ±1.	0%	1お形測来準たす2度3全度以4の5合高さ ※3て理術管規計場個し計の1と厚高厚、差の 道派の領域のでは上、標のはと 歩元3領面をす方にの土はで/るはとを下対と 装売3領面をす方にの土はで/るはとを下対と 装装がのいる (管屋値す にのがりから) の標層値す にのが、の標層値す にのが、の標層値す にのが、の標層値す にのが、の標層値す にのが、の標層値す にのが、の標層値す にのが、の標層値す に	元案理施計に用測皿計高(直差高の+る計)のす測よす値が幅値平 下で較目設。測舗場る精りるの含員を面 層算差標計	技装合場度出。規まの算投 の出と高厚術工)合・来 格れ内出影 標すしささを事」、計形 値に側す面 高るで下か	用編こそ則管 こい全る責 直 評直 た多づ他度を 計。と計た 当 で 価下 出点き本を実 測 し測り 該 る層 出点き出表満施 精 、密) 層 場標	工事規模の記 中規模以上 の施工面積が層および表別 500 t 以上の 小規模工事 り規模が小さ	考え方 の工事 が 2,000 層用混合 場合が、「 といもの こおい	とは、)m2 以上 介物の系 該当す 可規模り)。	1層あたり :あるいは基 ※使用量が、 る。 以上の工事よ 平坦性の項目	3-2-6-	-10

-366**-**

出来形管理基準及び規格値

								規材	各値			
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目		測定値 ()	の平均 *面管理 は測定	測定値 g(X10) lの場合 値の平 g	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘要
							中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下		
3 土 木	2 一 般	6 一 般	11	1	グースアスファルト 舗装工	厚き	-15	-20	-5	-7	(最少2ヶ所)、厚さは、1000㎡に1 中規模以上の工事とは、1層あたり 個の割でコアーを採取して測定。ただ の施工面積が2,000m2以上あるいは基	3-2-6-11
工事共通	施工	舗 装 工			(加熱アスファルト 安定処理工)	幅	-50	-50	_	_	し最少3個 層および表層用混合物の総使用量が、 500 t 以上の場合が該当する。	
— 編 —											カ規模が小さいもの。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目 を省略することが出来る。	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	2	グースアスファルト 舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-36	-45	-5	-7	1. 3次元データによる出来形管理に おいて「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領 (案) 舗装工事編 多点計測技術 (面管理の場合)」、「に基づ き出来形管理を実施する場合、その他 本基準に規定する計測精度・計測密度 を満たす計測方法により出来形管理を 変施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mm が含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2 (平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の標高を差で対値+設計厚さから求まる高さとの差とする。 3 対象	3-2-6-11

I -55
-367-

							T					<u> </u>	毕位:mm
	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測(X)	削定値)	10 個の の平均 *面管理 は測定 な 数	J(X10) !の場合 値の平 p	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘要
	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	3	グースアスファルト 舗装工 (基層工)	厚さ幅	中規模 以上 -9 -25		中規模 以上 -3 -	<u>以下</u> -4		-2-6-11
I - 56	3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	4	グースアスファルト 舗装工 (基層工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-20	-25	-3	-4	1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に基づき出来形管理要実施でする場合、計測を変更を満定する計測精度・計測密度を表満たす計測方法により出来形管理を実施でも場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として生4mmが含まれている。3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。	-2-6-11

—368*—*

											単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規 が 関本の測定値 (X)	格 値 10 個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
	2		11	5	グースアスファルト 舗装工	厚ち	中規模 小規模 以上 以下	は測定値の平 均 中規模 小規模 以上 以下 -2 -3	幅と横断勾配は、延長 40m毎に 1ヶ所 の割とし(最少 2ヶ所)、厚さは、		3-2-6-11
工木工事 共通編	一般施工	般舗			(表層工)	幅	-25 -25	2 3m プロフィルメーター (σ)2.4mm 以	の割とし、飯少 2 5 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	層および表層用混合物の総使用量が、 500 t 以上の場合が該当する。	
が抽						平坦性	_	下直読式(足付き) (σ)1.75mm 以下		コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。	
3	2		11	6	グースアスファルト	横断勾配厚さあるい		. 0%	1. 3次元データによる出来形管理に	維持工事においては、平坦性の項目 を省略することが出来る。 工事規模の考え方	3-2-6-11 E
土木工事共通編	般施工	般舗			舗装工 (表層工) (面管理の場合)	は標高較差 平 坦 性	-17 -20 -	-2 -3 3m 7 ロフィルメーター (σ)2.4mm 以 下直読式(足付き) (σ)1.75mm 以下	おいて「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)舗装工事編 多点計 測技術(面管理の場合)」に基づき出 来形管理を実施する場合、その他本基 準に規定する計測精度・計測密度を満 たす計測方法により出来形管理を実施 する場合に適用する。 2.個々の計測値の規格値には計測精	中規模以上の工事とは、1層あたりの施工面積が2,000m2以上あるいは基層および表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。小規模工事とは、中規模以上の工事より規模が小さいもの。 維持工事においては、平坦性の項目	百姓後十次公鸡怕區
						横断勾配	±1	. 0%	度として±4mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密 度は1点/m2(平面投影面積当たり) 以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	を省略することが出来る。	생기
									5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。		

I -57 -369-

出米
粝
硘
屈
棋
糾
及
ď
猫
格
益
ımı

																					単位	: mm
										規格	値											
		編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目		測定値 X)	10 個の の平均 *面管理 は測定値	(X10) の場合	測	定	基準		測	定	箇	所	摘	要
									中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下										
		3 土 木	2 一 般	6 一 般	12	1	コンクリート舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	_	-	基準高は延長 (最少2ヶ所 部で測定。厚) 、道	烙中心線お。	よび端	工事規模の考中規模以上の	工事と			3-2-6-12	!
		工事	施工	舗装				厚き	_	45	-1	15	ヶ所を掘り起 所)。幅は、	こして? 延長 40	則定(最少: m毎に1ヶ)	3 r	の施工面積が 基層および表 が、500 t 以」	層用混合 この場合	予物の総 が該当	総使用量 する。		
		共通編		工				幅	_	50	_	-	に測定(最少 ただし、幅は 延長 40m 以下 できる。	設計図	書の測点に』		小規模工事と より規模が小 厚さは、個 個以上の割合	さいもの 々の測定)。 E値が 1	10個に9		
																	ればならない 値の平均値(ければならな ータ数が 10 個 平均値は適用	X10) に い。たた 団未満の:	ついて ごし、厚	満足しな 厚さのデ		
ı		3 土 木 工	2一般施工	6 一般 舗	12	2	コンクリート舗装工(下層路盤工)	基準高▽	±90	±90	+40 -15	+50 -15	1. 3次元デ おいて「3次 形管理要領(測技術(面管	元計測排案) 舗装	支術を用いた 装工事編 ②	た出来 多点計	の施工面積が	工事と 2,000m2	以上は	あるいは	3-2-6-12	}
-370—	I —58	土木工事共通編	Ï	装工			(面管理の場合)	厚さあるい は標高較差	±90	±90	+40 -15	+50 -15	来形管理を実 準に規定する たす計測方法	施する 計測精 により	場合、その他 度・計測密度 出来形管理を	也本基度を満	基層および表 が、500 t 以」 小規模工事 事より規模が	:の場合: :とは、	が該当 中規模	する。		
	3	林田											にす2度3全度以4の5合高さ評の出版では、 は場価し計の1と厚高厚、差のは 関合なて測点点する値さ直平差と価はでする。は、差のは では上・標・は較と価はできるは、とを標層値です。	用測皿計高(直差高の+るの含量を面 層算差高の+る。	規 ま か 所 は に い 全 る 積 値 。 い 声 出 を 標 す し さ と か に り ま で も る き し さ し さ り さ り さ り さ り さ っ と っ と っ と っ と っ と っ ら 。 ら 。 ら っ に ら 。 ら 。 ら っ ら 。 ら っ ら 。 ら っ と っ と っ ら 。 ら 。 ら 。 ら 。 ら 。 と う と う と う と う と う と う と う と う と う と	十。と 神 し 測 し 測 し 測 し 測 り 該 るのる 精 、密) 層 場標高	事より規模が	小さいも	, O.			

				1			1	1				1					1					- 平	<u> </u>	٦
									規格	各値														
	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目		測定値 X)	の平均 *面管理	O測定値 均(X10) 里の場合 値の平均		測	定	基	準	測	定	Ē	箇	所	摘	要	
								中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下													
	3 土 木 工	2 一般施	6 一般 舗	12	3	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工)	厚さ	-25	-30		-8	(最少2 m毎に1 少3か所	ヶ所) ヶ所を r)。	、厚掘り	では、 起こし	で割とし 各車線 200 て測定(最	工事規模の 中規模以 の施工面積 基層およて	上の工 が 2,0 表層用	事とり 900m2 月混合	以上は 物の線	あるいは 総使用量	3-2-6-	2	
	事共通編	工	装工				幅		50	-	_					点によらず することが	が、500 t 明 が、500 t 明 が、規り厚以はでは、 原 の は で の が は で の が は で の が は で の が は で の が は で の が は で の が は で の が は で の が は で の が は で の が は で の か が は で の か が は で の か が は で の か が は で の か が は で の か が は で の か が は で の か が は で の か が は で の か が は で の か が は で の か が は で の か が は で の か が は で の か が は で の か が は で の か が は で の か が は で の か は で の か は で の か は で の か は で の か は で の か は で の か は で の か は い か は い は い は い は い は い は い は い は い	以上の、 と小個合い(Xio の、 との はなってとい の の はなの はない。 の はない。	場中も測格もいたのとは、	が 模。 値を に、 いし、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に	する。 上の工事 10 個に 9 足しなけ 個の測定 満足しず 厚さのデ	:		H
I - 58 - 1	3.土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	12	4	コンクリート舗装工(粒度調整路盤工)(面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-55	-66	-	-8	お形測来準たす2度3全度以4の5合高い管技形にする.と.ては上.標.は較て理術管規計場個し計の1と厚高厚、差要 理定限合々で限点点すさ値さ直平	「3領面型を対方にの土はでえるほどを下均と次(管実る法適計10設標配。、の標層値す元案理施計に用測㎜計高(「直差高の+る	計)のす測よす値が幅値平 下で較目設。測舗場る精りるの含員を面 層算差標計こ	技装合場度出。規名の算投 の出と高厚術工)合・来 格れ内出影 標すしささを事」、計形 値で側す面 高るで+か	全面とし、 る。計測密 積当たり) 値と当該層	工事規模の 中規模の の を 対 の を 対 が 、 規模 が 、 規模 が 、 規模 が が 規模 が 、 規模 が り が 、 規模 が り が り り り り り り り り り り り り り り り り	上の工 が 2,0 表層用 以上の とは、	事とり 000m2 月混合 場合え 中規	以上は 物の線 が該当	あるいは 総使用量 する。	3-2-6-	2	来形管埋基準及び規格値

-370-1-

												単位:mm
									規	各値		
編	草	立 節	ī	条	枝番	工種	測定項目		測定値 X)	10 個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	測 定 基 準 測 定 箇 所	摘要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規模 以上 以下		
3 土 木	: —	. _	-	12	5	コンクリート舗装工 (セメント(石灰・	厚き	-25	-30	-8	福は、延長 40m毎に1ヶ所の割とし	-2-6-12
工事	施工	i 舗 : 装	ŧ			瀝青) 安定処理工)	幅	_	50	_	こして測定(最少3ヶ所)。 暦および表層用混合物の総使用量が、 ただし、幅は設計図書の測点によらず 500 t 以上の場合が該当する。	
共通編			-								延長 40m以下の間隔で測定することが	
土木工事共通編	· 一般· 加加· 加加· 加加· 加加· 加加· 加加· 加加· 加加· 加加· 加	·	· ·	12	6	コンクリート舗装工 (セメント (石灰・ 瀝青) 安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-55	-66	-8	1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計則技術(面管理の場合)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として出10mmが含まれている。3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m2(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ十直下層の標高較差平均値十設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。	-2-6-12

-371-

I - 59

単位:mm

r	1	1	1		1	1	1	F				1				1				単位	: mm
									規	格 値											
	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		測定値 X)	の平: *面管3	D測定値 均(X10) 埋の場合 値の平均	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘!	要
								中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模以 下										
	3 土木工	2 一般施	6一般施	12	7	コンクリート舗装工 (アスファルト中間	厚さ	-9	-12		-3		を 40m毎に r 所)、厚 コアーを採	さは、1,0	00 m²に1		上の工事	とは、1 M)m2 以上あ		3-2-6-12	
	木工事共通	<u></u> 工	施舗装 工			層)	幅	-2	25		_	3個)。 ただし、🛉		書の測点に	こよらず	500 t 以上 小規模工	.の場合が 事とは、中	う物の総使 該当する。 [□] 規模以上			
- I	編											できる。	Д VJ HJ M	(例 足)。	, <i>,</i> , ,	以上の割れなり なり値(X1 なり値)なの 10 個しな に が に が に に に に に に に に に に に に に に に	個々の測値である。 個で見れている。 個でというでは、 ののでは、 でしている。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	D。 定値が 10 定値が 10 10 間のし 10 間にの 関定値の 関定に 関係 で 対の で で で で で で で で で で で で で で で で で	なければ平なければ平なければ平はかがです。 なりなりなりないではががいる。 なりないないないないないないないないないないないないないないないないないないな		口米形官驻
59-1	9. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	2一般施工	6一般舖装工	12	8	コンクリート舗装工 (アスファルト中間 層) (面管理の場合)	厚さある的差	-20	-27		-3	お形測来準たす2度3全度以4の5合高い管技形にする。と、ては上、標、は較て理術管規計場個し計の1と厚高厚、差「要(理定測合々で測点点すさ値さ直平	は、、 では、 では、 できれる できる できる できる できる できる できる できる できる できる でき	技装合場度出。規まの算投の出と高厚術工)合・来 格れ内出影 標すしささを事」、計形 値て側す面 高るで+からでい全る資 値。評直らではなる。言 と イース	、 甚り密里 よう面 当 と 西下ドた多づ他度を 計。と計た 当 す層ま出点き本を実 測 し測り 該 るのる来計出基満施 精 、密) 層 場標高	の施工面積層および	上の工事 漬が 2,000 表層用混合 の場合が 事とは、中		るいは基 用量が、	3-2-6-12	□米形官理奉準及ひ規恰値

-371-1-

単位:mm

			1															1	
								規 相	各値										
編	章	節	条	枝番	I	種 測定工	項目	個々の測定値 (X) 中規模 小規模	10 個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 中規模 小規模	犭	則定	基	準	測	定	籄	所	摘	要
9	2	6	10	0	コン/カリ. L 公式	:H: T		以上以下	以上以下	回シルタ:	古伯の由	> 4\C>	新田·拉·拉·拉	工事担構の生	<u>د د +</u>			3-2-6-	1.0
3 土 木	一般	一般	12	9	コンクリート舗 (コンクリー)	厚	さ	-10	-3.5	車線 200n	n毎(200	m以下的	『型枠据付後各 は3ヶ所)にか ほ当たり横断方		の工事				12
八工事共	施工	舗装工			版工)	幅	i	-25	_	向に3ヶ月	所以上測2	定、幅と	横断勾配は、 で測定(最少 2	および表層用 t以上の場合	 混合物 か該当	の総使 する。	用量が、500		
光通編		上				横断名	勾配	±1.0%		平坦性は名 上、全延±	長とする。	なお、	ら1mの線 スリップフォ	小規模工事とり規模が小さ	くいもの 国々の測	。 J定値が	10個に9		
						平坦	1 性	_	コンクリート の硬化後 3mプロフィル メーターによ り機械舗設の 場合 (σ)2.4mm以下 人力舗設の場 合 (σ)3mm以下	設前に各重 毎に水糸3 横断方向い 定し、測気 の版端で ただし、	車線の中心 又はレベル こ3ヶ所り 定打設後い を測定する 福は設計	ン付近り 以上路盤 に各車続 る。 図書の測	理に関し、打 各車線 200m 1 測線当たり の基準高を測 200m毎に両 点によらず延 ることができ	個以上の割合 ばならないと 平均なら値(X10 が10個未満 適用しない。 を省略するこ	ともに)) につ ただし の場合! こおいて	、10個 いて満 、厚さ は測定値 は、平	の測定値の 足しなけれ のデータ数		
						目地	段差	<u>+</u>	±2	隣接する ² び端部で2		対して、	道路中心線及	1					
3 土 木 工	2 一 般 施	6 一 般 舗	12	10	コンクリート舗 (コンクリート	厚さあ	-	-22	-3. 5	いて「37 理要領(次元計測 案)舗装	技術を月 工事編	来形管理にお いた出来形管 多点計測技術		の工事			3-2-6-1	12
上事共通編	上	# 装工			版工)	平 坦	!性	_	3m プロフィルメータ ー(の)2.4mm 以下直読式 (足付き) (の)1.75mm 以下	を実施するにする。 はまり は 2 に まり と と と し まり と と と と まり きょう と まり きょう きょう きょう きょう きょう きょう きょう しょう はい	る場合、 ・計測 来形管理 の計測値 は設計幅 は設計幅	その他 密度を を 実施 を 規て 内 に 人 の り し に り れ の り し り し り し り し り し り り り り り り り り り	き出来形だます。 基準す計にる場合には計測に適ける。 はは計算にはは計算にははいる。 ははいる。 はい。 はいる。 はい。 はいる。 はいる。 はいる。 はい。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 はいる。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、		か該当 は、中 いもの おいて	する。 規模以 。 は、平	上の工事よ		
										とする。 4. 標 5 は 標 5 は 差 で 単 6 に で 4 に 単 6 に で 4 に 単 6 に	は、直下が の差で算り を標高較素 層の目標。 十設計厚	層の標高 出する。 差として 高さ からす	iたり) 以上 i値と当該層の 評価する場合 ご下層の標高較 さまる高さとの 評価は省						

-372-

単位: mm

											単位:mr	IJ
								規	各値			
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	()	測定値 X)	10 個の測定値 の平均(X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平 中規模 小規模	測定基準測定箇所	摘要	
3 土木工事共通編	2 一般 施工	6 一般舗装工	12	11	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) 下層路盤工	基準高▽厚 さ 幅	以上 ±40	以下 ±50 45	以上 以下 ————————————————————————————————————	本準高は、延長 40m毎に1ヶ所の割とし (最少2ヶ所)、道路中心線及び端部で 測定。厚さは、各車線 200m毎に1ヶ所 が出たして測定(最少3ヶ所)。幅 は、延長 40m毎に1ヶ所の割に測定(最 か2ヶ所)。 にだし、幅は設計図書の測点によらず延 長 40m以下の間隔で測定することができ る。 (個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の 平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は 適用しない。	2-6-12	_
3.土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	12	12	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) 下層路盤工 (面管理の場合)	基準高▽厚さあるいは標高較差	±90 ±90	±90 ±90	+40 +50 -15 -15 +40 +50 -15 -15	維持工事においては、平坦性の項目を 省略することが出来る。 1. 3次元データによる出来形管理にお いて「3次元計測技術を用いた出来形管 理要領(案)舗装工事編 多点計測技術 (面管理の場合)」に基づき出来形管理 を実施する場合、その他本基準に規定する。計測精度・計測密度を満たす計測方法 により出来形管理を実施する場合に適用 2. 個々の計測値の規格値には計測精度 として±10mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は 1点/m2(平面投影面積当たり)以上 とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の 票高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合 ま、直下層の目標高さ十直下層の標高較差との差とする。この場合、基準高の評価は省格する。 をする。	2-6-12]

I - 60 - 1 -372 - 1 -

単位:mm

																				単位:r	nm
									規	格 値											
編	i	章	節	条	枝番	工種	測定項目		測定値 X)	10 個の? の平均 *面管理 は測定値	(X10) の場合	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘要	
								中規模以上	小規模 以下	中規模以上	以下										
3 土 木		2 一 般	6 一 般	12	13	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート	厚さ	-25	-30	-:		幅は、延長 少2ヶ所) 1ヶ所を掘	、厚さは、	各車線20	00m毎に	中規模以	の考え方 (上の工事。 が 2,000m2			3-2-6-12	
工事共		施工	舗 装 工			版工) 粒度調整路盤工	幅	_	50	_		所)。 ただし、幅	は設計図書	書の測点に	よらず延	t 以上のt 小規模工	層用混合物 場合が該当 事とは、中	する。 規模以上の			
通 編 												長 40m 以下 る。	の間隔で	判定するこ	とかでき	厚さは、 個以なり値(ご と はなり はなり が 10 個 は が 10 しない が 10 しない	Ü	J定値が 10 値を満足 l 、10 個の いて満足 l 、厚さの は測定値の	しなけれ 測定値の しなけれ データ数 平均値は		口米形官驻
3		2	6	12	14	コンクリート舗装工			1	1		1. 3次元	データに	トス出本形	答理に お	維持工事() 省略するこ 工事担増(ことが出来		ソ垻日を	3-2-6-12	三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三
5.土木工事共通編		2一般施工	0一般舗装工	12	14	(転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-55	-66	-8		1い理(をるにす2と3て1と4標5は差差略・て要面実計よる.し.の点す.高.、平とする「領管施測り。個で計点/る厚値厚直均する。(現す精出 々土測で紀。さとさ下値も。(八次案のる度来)の10は標(はのを層も。	元)場場・形 計皿設高平 、差標の設計舗合合計管 測が計値面 直で高目計測装)、測理 値含幅を投 下算較標厚技工」とである。 のま員算影 層出差高され	将事この度実 見れの出面 のすとさい 存編基他を施 格で内す積 標るし+らを編基他を施 格で内す積 標るし+らるき基たる にる全。た 値 評字るとは準す場 は。面計り と 佃屋まる	出計率に計合計 と測) 当 すの高来測形規測に 測 し密以 該 る標さ管術理す法用 度 全は上 の 合較の	中規模以施工面積がおよび表別という。	上の工事。 が 2,000m2 層用混合物 場合が該当	以上あるい の総使用量 する。 ## # N L a	ハは基層 量が、500		基年及り現情

I -60-2
-372-2-

																			里似:mm
									規材	各 値									
	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の (X		10 個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘要
								中規模以上	小規模 以下	中規模 小規模 以上 以下									
	3 土 木	2 一 般	6 一 般	12	15	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート	厚さ	-25	-30	-8		. 》、厚	さは、	1,000 m² ℃ 1	工事規模の表中規模以上の拡工を持め	の工事		1層あたり 上あるいは基	3-2-6-12
	工事	施工	舗装			版工) セメント (石灰・瀝	幅	-{	50		個の割でコア 起こして測定 ただし、幅は	(最少	3ヶ所) 。	層および表層 500 t 以上の	列用混合 場合が	う物の約 該当す	総使用量が、 る。	
I -	共通編		Н			青)安定処理工					延長 40m 以下 できる。	の間隔	で測定	することが	個以上の割合 ばならないと で均値(Xii が10個未満 は適用面舗装を も他の方法によ	いねでというのい 等すにこいねの規制についる におって こうこれ でえるこれ	つ 副格 こ に に に に に に に に に に に に に	が 10 個に 9 満国の測な fu lu	
-61	3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	12	16	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) セメント (石灰・瀝青)安定処理工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-55	-66	-8	1 お形測来準たす2度3全度以4の5合高さ評3て理術管規計場個し計の1と厚高厚、差のは次「要(理定測合々て測点点すさ値さ直平差省で要にであ土はで/ごの土はを下均と略である。の標屋値すする決違計1記標に。、の標屋値すする決違計1記標に。、の標屋値すする決違計11記標に。、の標屋値すする決違計11記標に。、の標屋値すする決違計11記標に。、の標屋値すする決違計11記標に。、の標屋値すする決違計11記標に。、の標屋値すする決違計11記標に	て、条理施計に用測m計高の 直差高の上る計)のす測よす値が幅値平 下で較目設。測舗場る精りるの含員を面 層算差標計こ	技装合場度出。規まの算投の出と高厚術工)合・来 格れ内出影 標すしささを事」、計形 値で傾す面 高るて+が	用編にそ測管にい全る積 値。評直らい 基の密理 はる面。当 と 価下求た多づ他度を 計。と計た 当 す層ま出点き本を実 測 し測り 該 るのる出のである。 層 場標高来計出基満施 精 、密) 層 場標高	工事規模の表 中規模以上 の施式は 500 t 以上の が規模が が り規模が が	の工事 ³ 2,000 は、中	Om2 以」 計物の約 該当す 早規模以	上あるいは基 総使用量が、 る。	3-2-6-12

-373-

			ī		Т		1					1				_				単位:	mm
									規	各値											
	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		○測定値 X)	の平均 *面管理 は測定	測定値 g(X10) gの場合 値の平 g	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘要	
	3	2	6	12	17	コンクリート舗装工		中規模以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下	幅は、延長4	10 年17	1 , 75	の生!!.!	工事規模の	とう士			3-2-6-12	
	土木工事共通編	般施工	一般舗装工			(転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	厚さ幅	<u>-9</u>	-12 -25	-3	<u> </u> -		所) 、厚 アーを採 は設計図	さは、1 取して? 書の測』	1,000 ㎡に1 測定(最少 点によらず	中施設は 中施おり 大規模面で表別 大型 大型 大型 大型 大型 大型 大型 大型 大型 大型	の工事が 2,000r 2,000r 場は 2,000r 場は いった はいっと はいっと はいっと もい。 もい。 もい。 もい。 もい。 もい。 もい。 もい。	n2 以物 変規。 定値、いなりを対します。 定値に10 満ににします。	:あるいは表 使用量が、 る。 (上の工事) 「10 個に 9 「足しなけれ 」の測定値の 足しなけれ		
I -61-	3+	2	6	12	18	コンクリート舗装工	厚さあるい	90	07	Γ	0	1. 3次元				が 10 個未満は適用しませい。 は適用面舗集を与いる。 等にの方工事による。 者略すること 工事規模の表現である。	の場合にいいます。 できること はいい おいっこう かいい おいい おいい おいい おいい おんしょう おんしょう かいがく かいがく かいがく かいがく かいがく かいがく かいがく かいがく	は測定形形を飛り出る。	値の平均値 なにより床に なにより床に かる場合は、 そる。 性の項目を	Ž	日本沙里连条丰久〇光市區
-1	土木工事共通編	一般施工	一般舗装工			(転圧コンクリート版工)アスファルト中間層(面管理の場合)	は標高較差	-20	-27		3	お形測来準たす2度3全度以4の5合高さ評い管技形にする。と、ては上、標、は較と価て理術管規計場個し計の1と厚高厚、差のは「要(理定測合々て測点点すさ値さ直平差省のです方にの4まだが、3、6本間ですが、	(管実る法商計Lm投票位 ハ票層直す案理施計に用測が計高(直差高の十る)のす測よす値が幅値平 下で較目ありまる精場る精りるの含:員を面 層算差標計こ	装合場度出。規まの算投 の出と高厚工)合・来 格れ内出影 標すしささ事」、計形 値で側す面 高るて+か	編にそ測管 にい全る積 値。評直ら多づ他度を 計。と計た 当 す層ま点き本を実 測 し測り 該 るのる計出基満施 精、密) 層 場標高	中規模以上 の施工面積減 層および表別 500 t 以上の 小規模工事 と り 規模が小さ	i 2,000r	n2 以上 物の総 亥当す 規模以	:あるいは基 終使用量が、 る。		"多个光生间

-373-1-

現 格 値	編 章 節 条 枝番 エ 種 測定項目 個々の測定値 (X) 10 個の測定値 の平均(Xi0) * (A) 2	### 第二	編 章 節 条 枝番 工 種 測定項目 個々の測定値 (X)																		単位:m
## 第	第 章 節 条 枝番 エ 種 測定項目 個々の測定値 (X) * 面管理の場合は測定値の平均(xi) * 面管理の場合は測定値の平均 1	第	## 第								規	洛 値									
3	3 2 6 12 19 コンクリート舗装工	3 2 6 12 19 コンクリート舗装工	3 2 6 12 19 コンクリート舗装工	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		の平均(X ₁₀) *面管理の場合 は測定値の平	測	定	基	準	測	定	笛	所	摘要
土 一 般	上	中規模以上の工事とは、1層あたり	上																		
事 共 通	事 共 通	事 共 通 編 一 横断勾配は、延長 40m毎に1ヶ所の割で測定(最少2ヶ所)。 「規模工事とは、中規模以上の工事より規模が小さいもの。 中さは、個々の測定値が10個に9 規模が小さいもの。 中さは、個々の測定値が10個に9 機断の配と、を延長とする。 ただし、幅は設計図書の測点によらずにはなりないとともに、10個の測定値の平均値はならないとともに、10個の測定値の平均値はならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。コア一採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 標接する各目地に対して、道路中心線	事 共 通	土木	一般	般	12	19	(転圧コンクリート	厚き	-15	-4.5	後各車線 200 所) に水糸又	m毎(2 なレベ	200m以 ルによ	.下は3ヶ り1測線当	中規模以」 の施工面積	この工事。 が 2,000	m2 以上	あるいは基	3-2-6-12
# 横断勾配	# 横断勾配	## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##	# 横断勾配	事共		装			版工)	幅	-35	_	横断勾配は、 で測定(最少	延長 40 2ヶ所)m毎に)。	1ヶ所の割	500 t 以上の 小規模工事)場合が記 とは、中	核当する 規模以	5.	
平均値(X10) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数のデータ数のできる。 平均値(X10) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数のが10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。コアー採取について、	 平 坦 性 一 プロフィルメーターにより (σ)2.4mm 以下。 平 担 性 一 プロフィルメーターにより (σ)2.4mm 以下。 	 平 坦 性 一 プロフィルメーターにより (σ)2. 4mm 以下。 「下。 「できる。 平均値(X10) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。コアー採取について橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 「隣接する各目地に対して、道路中心線は大力では、アリセスであります。 	平均値(X10) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数のデータ数のできる。 平均値(X10) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数のが10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。コアー採取について、							横断勾配	±1.0%		上、全延長と ただし、幅に	: する。 t設計図	書の測	点によらず	厚さは、 個以上の割	個々の測 合で規格	定値が 値を満	足しなけれ	
他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を 隣接する各目地に対して、道路中心線(はWY・カストルが出来する。	他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を 隣接する各目地に対して、道路中心線(は際かれてこれが出来する。	他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を 隣接する各目地に対して、道路中心線(体験をカステルが出来る)	他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を 隣接する各目地に対して、道路中心線(はWY・カストルが出来する。							平坦性	_	トの硬化後、3m プロフィルメー ターにより (σ)2.4mm以	できる。	の間隔	で測定	することが	平均値 (X ばならない が 10 個未満 は適用しな 橋面舗装	10) につ 。ただし 詩の場合り い。コア 等でコア	いて満た (人)	足しなけれ のデータ数 直の平均値 について により床版	
	日本校左 — — — — — — — — — — — — — — — — — — —	日·超校是	日本民文生 ————————————————————————————————————							日地段美	_	<u> </u>			して、	道路中心線	他の方法に 維持工事に:	よること おいては	が出来 、平坦	る。	

I - 61 - 2 -373 - 2 -

							規 核	各 値										
編	i 章	節	条	枝番	工 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10 個の測定値 の平均(X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘要	
							中規模 小規模 以上 以下	中規模 小規模 以上 以下										
3 土 木	2 一般施	6 一般 舗	12	20	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート	厚さあるい は標高較差	-32	-4. 5	1. 3次元ラおいて「3%形管理要領	大元計測 (案) 舗	技術を 装工事	用いた出来 編 多点計		の工事 以 2,000	m2 以_	上あるいは基	3-2-6-12	
土木工事共通編	施工	装工			版工) (面管理の場合)	平坦性	_	3m プロフィルメータ ー(σ)2.4mm 以下直読式 (足付き) (σ)1.75mm 以下	測技術管理には (面管等) (面管等) (速等) (***********************************	E施する 5計測精 5計により 5 6 6 7 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	場合、計度・計出。 規格値 まれてい	その他本基 測密度を実施 管理を実施 には計測精 いる。	層および表展 500 t 以上の 小規模工事と り規模が小さ	場合が は、中	該当す 規模以	る。		
									全度以4の1と厚高厚、差のはに、の1と厚高厚、差のはを下のはをを下りていた。 との 5 合高さ評	票名 ひ票層直片 直差高の 上る 直差 展算差標計 こ	算投 の出と高厚の出と高厚さされ	る。計測的 積						
						目地段差	±	=2	隣接する各目 及び端部で消		けして、	道路中心線	_					

I - 61 - 3 -373 - 3 -

H
\L
朱
툸
•
硘
温
丼
糾
及
d
70
拙
•
桮
盲

								規 柞	各値						平位: ㎜
	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X10) *面管理の場合 は測定値の平 均	測 定 基 準	測	定	笛	所	摘要
I —88—9	3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	17	2	オーバーレイ工(面管理の場合)	厚さあるいは標高較差 平 坦 性	-20	3m プ ロフィルメーター (σ)2.4mm 以下 直読式(足付 き) (σ)1.75mm 以下	1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術工事編を担来形管理の「3次元計測技術工事編を点計測技術工事に基本のとは、一次のでは、1. 3次元計測技術工事に基本を表別技術工事に基本のとのでは、1. 3次元計算を表別技術工程を実施を実施を支援を表別して、1. 3次元計算を表別技術では、1. 3次元計算を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を					3-2-6-17

単位:mm

	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	海 要
İ	3 土 木	2 一 般	7 地 盤	2		路床安定処理工	基準高▽	±50	延長 40mにつき 1ヶ所、延長 40m以下 のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。 基準高は、道路中心線及び端部で測	- G-	3-2-7-2
	土木工事共	施 工	改良工				施工厚さ t	-50	定。 厚さは中心線及び端部で測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理		
	通編						幅 w	-100	要領(案)表層安定処理等・固結工 (中層混合処理)編」による管理の場 合は、全体改良範囲図を用いて、施工		
							延 長 L	-200	厚さt、天端幅w、天端延長Lを確認 (実測は不要)。	w	
]		
-	3	2	7	3		置換工	# # = =		施工延長 40m(測点間隔 25mの場合は	ę.	3-2-7-3
- -	土木工	般	地盤				基準高▽	±50	50 m) につき1ヶ所、延長40m (50 m) 以下のものは1施工箇所につき2		H H
67	事共	施工	改良工				置換厚さ t	-50	ヶ所。 厚さは中心線及び端部で測定。		
	通 編						幅 w	-100		w	3-2-7-3
							延 長 L	-200			
										t	
										w d	

-379-

	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
	3 土 木 工	2 一 般 施	7 地盤改	4	1	表層安定処理工 (サンドマット海上)	基準高▽	特記仕様書に明示	施工延長 10mにつき、1 測点当たり 5 点以上測定。	② ③ ④ ① / ⑤	3-2-7-4
	事共通編	Ĩ	良工				法 長 0	-500			
	孙田						天 端 幅 w	-300	w. (L)は施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。80m以下のものは1施工箇所につき3ヶ所。	2	
							天端延長 L	-500	(L) はセンターライン及び表裏法肩で行う。	<u> </u>	
	0	0	7								0.07.4
	土木工	2一般施工	7地盤改良工	4	2	表層安定処理工 (ICT 施工の場合)	基準高 ▽	特記仕様書に明示	施工延長 10m につき、1 測点当たり 5 点以上測定	2 3 4	3-2-7-4
	3 土木工事共通編	<u></u> 工	良工			(101 ne 1. v) nn 1 /	法 長 ℓ	-500		①/ <u>\$</u>	
-	編						天端幅 w	-300	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)表層安定処理等・固結工 (中層混合処理)編」に記載の全体改 良平面図を用いて、天端幅w、天端延	w.(L)	
5							天端延長 L	-500	長半面図を用いて、大蝙蝠W、大蝙蝠 長Lを確認(実測は不要)。	ê/	
	3 土 木	2 一 般	7 地盤	5		パイルネット工	基準高 ▽	±50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして	ન હ	3-2-7-5
	木工事共	施工	改良工				厚 さ t	-50	測定。 杭については、当該杭の項目に準ず る。	ļ [™] → ↓	
	通編						幅 w	-100		t	
							延 長 L	-200			

I - 68

Ī	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
-	3 土 木	2 一 般	7 地 盤	6		サンドマット工	施工厚さ t	-50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m以下の ものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。	Ç t	3-2-7-6
	工事共	施工	改良工				幅 w		厚さは中心線及び両端で掘り起こして 測定。		
	通編		Τ.				延 長 L	-200		w w	
-	3 土 末	2 一 般	7 地	7		バーチカルドレーンエ (サンドドレーンエ)	位置 · 間隔w		25 本に 1 ヶ所。 25 本以下は 2 ヶ所測定。 1 ヶ所に 4 本 測定。		3-2-7-7 3-2-7-8
	土木工事共通編	般施工	盤改良工			(ペーパードレーン 工) (袋詰式サンドドレー	杭 径 D		ただし、ペーパードレーンの杭径は対 象外とする。		
	通編			0		ンエ)	打込長さh	設計値以上	全本数	w	
89— I				8		(サンドコンパクショ ンパイル工)	サンドドレーン、袋詰式 サンドドレーン、サンド コンパクションパイルの 砂投入量	_	全本数 計器管理にかえることができる。	\downarrow \downarrow \downarrow \downarrow \downarrow \downarrow \downarrow \downarrow \downarrow \downarrow	
8-1											
										h	
										※余長は、適用除外	

I -68-1 -380-1-

H
朱
炭
管理
基
軟料
及
Š
規
· A
盲

H
朱
炭
凾
題
基基
太
7
残
格
痐

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	単位:mm 摘 要
3 土木工事共	2 一 般 施 工	13橋梁架設工			架設工 (鋼橋) (クレーン架設) (ケーブルクレーン架 設) (ケーブルエレクショ	全 長 L (m) 支間長 L _n (m)	± (20+L/5) ± (20+Ln/5)	各桁毎に全数測定。	単経間の場合	3-2-13
通編					ン架設) (架設桁架設) (送出し架設) (トラベラークレーン 架設)	通 り δ (mm)	± (10+2L/5)	L: 主桁・主構の支間長(m)	主	
						そりδ(mm)	± (25+L/2)	主桁、主構を全数測定。 L: 主桁・主構の支間長(m)	b L	
						※主桁、主構の中心間 距離 B(m)	$\begin{array}{ccc} \pm 4 \cdots & B \leq 2 \\ \pm (3+B/2) \cdots & B > 2 \end{array}$	各支点及び各支間中央付近を測定。	printatal	
T -83						※主桁の橋端における 出入差 δ (mm)	±10	どちらか一方の主桁(主構)端を測定。	§ 1 1 1 1 1 1 1 1	
						※主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	3+h/1000	各主桁の両端部を測定。 h: 主桁・主構の高さ(mm)	δh	
						※現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	±5	主桁、主構の全継手数の $1/2$ を測定。 δ 1, δ 2のうち大きいものなお、設計値が 5 mm 未満の場合は、すき間の許容範囲の下限値を 0 mm とする。(例:設計値が 3 mm の場合、すき間の許容範囲は 0 mm \sim 8mm)	δι	
								※は仮組立検査を実施しない工事に適用。		
						※規格値のL, B に代入っただし、「主げた、主	L する数値はm単位の 構の鉛直度 δ 」の	┃ 数値である。 規格値のhに代入する数値はmm単位の数	1	

出来形管理基準及び規格値	
;管理基準及び規格(
理基準及び規格の	***
基準及び規格	7.71
②及び規格	基
格	,,,,,,
格	Ų.
=-	•
	=-

編	章	節	条	枝番	工 種	測	」 定 項 目	規格値	測 定 基 準	測	定	笛	所	単位:mm 摘 要						
3 土 木 工	2 一 般 施	橋梁架			架設工(コンクリート橋)(クレーン架設)	全	: 長・支 間	_	各桁毎に全数測定。					3-2-13						
事共通	工				(架設桁架設) 架設工支保工	桁の中心間距離		_	一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。											
編					(固定) (移動) 架設桁架設	そ	· ŋ	_	主桁を全数測定。											
					(片持架設) (押出し架設)															
3 土 木 工 事	般施	法面 工	2	1	植生工 (種子散布工) (張芝工) (筋芝工)	切土	ℓ<5m	-200	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。 ただし、計測手法については、従来管					3-2-14-2						
共通編											(市松芝工) (植生シート工) (植生マット工) (植生筋工) (人工張芝工)	法 長 Q	ℓ≥5 m	法長の-4%	理のほかに「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)法面工編」で規 定する出来形計測性能を有する機器を 用いることができる。					
						(植生穴工)	盛 土 法	ℓ<5m	-100											
						長	$\ell \ge 5 \mathrm{m}$	法長の-2%												
						延	長 L	-200	1施工箇所毎 ただし、計測手法については、従来管 理のほかに「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)法面工編」で規											
													ロボルを「生安阪(米)」は国工編」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる。							

単位:mm

ſ	編	章	節	条	枝番	工 種	浿	定項目	規格値	型								
3 土木工事共通	土木	2 一 般 施	14 法面工 共通	2	2	植生工 (植生基材吹付工) (客土吹付工)	法 長 0	ℓ<5m	-200	施工延長 40mにつき 1 ヶ所、40m以下 のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。 ただし、計測手法については、従来管								
	事共通	工						ℓ≧5m	法長の-4%	理のほかに「T3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)法面工編」で規 定する出来形計測性能を有する機器を								
	編									用いることができる。								
I -84-1								t <5cm	-10	施工面積 200 ㎡につき 1 ヶ所、面積 200 ㎡以下のものは、1 施工箇所につき 2 ヶ所。								
												厚 さ t	t≧5cm	-20	検査孔により測定。			
															ただし、吹付面に 最小吹付厚は、設 し、平均厚は設計	計厚の 50%以上と		
							延	£ 長 L	-200	1 施工箇所毎 ただし、計測手法については、従来管 理のほかに「3 次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)法面工編」で規								

	編	章	節	条	枝番	工 種	i	測	定	項目		規	格値		測	Ė	基	準	測	定	笛	所	摘要	7
	3 土木工事共	2 一般 施工	14 法面工 共	3		吹付工 (コンクリート) (モルタル)	法長			9<3m			-50		施工延長 40mに のものは 1 施工 測定断面に凹凸 定が困難な場合 ただし、計測手 理のほかに「3	箇所に があれ は と の と こ と た 計	こつき 2)、 泉法長。 泉法 り り り り り り り り り し り り り り り り り り り	2ヶ所。 線法長の測 とする。 は、従来管 Fを用いた	1	2			3-2-14-3	
	通編		通						e	2≧3m		_	-100		出来形管理要領 定する出来形計: 用いることがで	測性能	法面コミを有す	[編] で規	***	Q	\range L	.		
I									t	t <5cm			-10		200 ㎡につき 1 / 2 ヶ所をせん孔	ァ所以 により	上、20 測定。	00 ㎡以下は		L Q	Ž.	Γ		出来形管理基準及び規格値
— 85							厚 さ t	4		t ≧5cm			-20	9						7				準及び規格
								最	:小吹	、吹付 付厚は 均厚は	、設計	・厚の 50	る場合の 0%以上	と										各値
								延		長 L	,	_	-200		1施工箇所毎 ただし、計測手 理のほかに「3 出来形管理要領 定する出来形計	次元計 (案)	ト測技術 法面コ	所を用いた □編」で規						
															用いることがで									

- 398 -

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定項目	規格値	測 定 基 準	測定	箇 所	摘要	
3 土 木 工	2 一 般 施	14 法 面 工	4	1	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法長	ℓ<10m	-100	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。	* a		3-2-14-4 曲線部は設計 図書による	
事共通編	工	共通				0	ℓ≧10 m	-200	計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形計 測要領(案)法面工編」で規定する出 来形計測 性能を有する機器を用いることが出来	a I			
						幅	W	-30	枠延延長 100mにつき 1 ヶ所、枠延延長 100m以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。 計測手法については、従来管理のほか				
						峝	さ h	-30	に「3次元計測技術を用いた出来形計 測要領(案)法面工編」で規定する出 来形計測 性能を有する機器を用いることが出来				
						枠中	心間隔 a	±100	వ.				出来
						延	長 L	-200	1施工箇所毎 計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形計 測要領(案)法面工編」で規定する出 来形計測性能を有する機器を用いるこ とが出来る。				出来形管理基準及び規格値
3 土 木 工	2 一 般 施	14 法 面 工	4	2	法枠工 (プレキャスト法枠 工)	法長	ℓ<10m	-100	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。			3-2-14-4	び規格値
事共通	エ	共通				Q	0≧10m	-200					1111111
編						延	長 L	-200	1 施工箇所毎				
3 土 木 工	2 一 般 施	14 法 面 工	6		アンカーエ	削孔	.深さ 0	設計値以上	全数	d y	θ	3-2-14-6 ※鉄筋挿入工 にも適用する	
事共通編	工	共通				配置	誤差 d	100		H x	 * * 		
						せん	孔方向 θ	±2.5度		$d = \sqrt{x^2 + y^2}$			

I -86 -399-

	編	章	節	条	枝番	工	重	測	定	頁 目	規格値	測	定	基準	測 定 箇 所	事业: mm 摘 要]
	3 土 木 工	2 一 般 施	15 擁 壁 工	1		(一般事項) 場所打擁壁工		基	準言	≒ ▽	±50 ただし舗装面と接 する場合±30	50m) につき	1ヶ所、	間隔 25mの場合は 延長 40m(又は 施工箇所につき		3-2-15-1	
	事共通編	工	共通					厚		Š t	-20	2 ケ門。			h		
	лупа							裏	込り	す さ	-50						
								幅	W	1, W ₂	-30						
								高 さ	h	<3m	-50				$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$		FF.
								h	h	≧3m	-100 -0.5%	1 施工箇所毎					来形質
I -87								延	-	Ē L	ー0.5% ただし 最大-200 最小-50	1 旭上酉別 毋			t t t t		出来形管理基準及び規格値
								勾	Ē	iZ	±0.5分						とび規格化
	3 土木工事共	2 一般施工	15 擁壁工 共	2		プレキャスト擁壁」	I.	基	準言	韦 ▽	±50 ただし舗装面と接 する場合±30	50m) につき:	1ヶ所、	間隔 25mの場合は 延長 40m(又は 施工箇所につき		3-2-15-2	一
	共通編		通					延	-	₹ L	ー0.5% ただし 最大ー200 最小ー50	1 施工箇所毎					
								勾	Ē	id	±0.5分						

I -87
-400-

	編	章	節	条	枝番	工 種	浿	り 定	項	目	規	. 格	各 値		淮	則	定	基	準		測	定	箇	所		摘要	
	3 土木工	2 一 般 施	15 擁 壁 工	3		補強土壁工 (補強土 (テールアル メ) 壁工法)	基	生 準	高	∇	ただす	±8 し舗3 る場7	50 装面と接 合±30	50n 50n	1) に	つき1	ケ所、	延長	5mの場 40m() 箇所に~	又は	→ 			0	3-	2-15-3	
	事共通編	Ĭ.	共通			(多数アンカー式補強 土工法) (ジオテキスタイルを 用いた補強土工法)	高さ		h <	3m		-5	50		,,,,						h						
	луны					/II V / CIM JELL LID/	h		h≧	3m		-1	.00								113475	Δ.					
							釺	直	度	Δ			h かつ 以内								T		/	I			
							(補強	. 長 才の該	设計)	訍	设計値 -0.	5%	1 が	直工箇戸	所毎					h						E
I							延	Ē	長	L	占	ただ	ごし −200								1212						出来形管理基準及び規格値
— 88	3 土木工	2 一 般 施	15 擁 壁 工	4		井桁ブロック工	基	生 準	高	∇	ただす	±5 し舗3 る場3	50 装面と接 合±30	50n 50n	1) にっ	つき1	ヶ所、	延長	5mの場 40m(〕 箇所に~	又は			Lı		3-	2-15-4	基準及で
	事共通編	工	共通				法長		Q < 3	3 m		-5	50										L ₂				が規格値
							Q		0≥3	3 m		-1	100								<u>2/2</u> 2/2 2 /		13				I IUUT
							厚	さt ₁	, t ₂	, t ₃		-6 -0.		1 1/2	五工箇戸							.,	t ₂	t ₂			
							爻	E :	長 I	L ₁ , L ₂	貞	ただ 最大-		1 //	변 그 - [리] /	ЛЊ					ℓ≥:	3 m	× 2<3 m	t,			
							勾	J	配	1		±0.	5分	-													

-401-

	編	章	節	条	枝番	工 種	涯	則定	項目	規格	子 値	測定基準 測定簡所 摘要	
	3 土 木	2 一 般	16 浚 渫	3	1	浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船)			200ps	-800~	~+200	延長方向は、設計図書により指定され た測点毎。 横断方向は、5m毎。	
	八工事共	施工	工			200000		電気	500ps	-1000	~+200	また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の砂計基準高以下であるこ	
	通編		通				基	船	1000ps	-1200	~+200	と。	
							準高▽	ディ	250ps	-800~	~+200		
								ーゼル船	420ps 600ps	-1000	~+200		
								が行	1350ps	-1200	~+200		
								ı	幅	-2	800		出米
								延	長	-2	200		出来形管理基準及び規格値
I -													斯 華
-89	3 土 木	2 一 般	16 浚渫	3	2	浚渫船運転工 (グラブ船)	基	表 準	高 ▽	+200	以下	延長方向は、設計図書により指定され 3-2-16-3 た測点毎。	及び
	工事共	施工	工			(バックホウ浚渫船)		ı	幅	-2	300	また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であるこ	蜆格値
	通編		通					延	長	-2		と。	<u> </u>
	3 土 木	2 一 般	16 浚	3	3	浚渫船運転工 (グラブ船)				平均値		1. 3次元データによる出来形管理に 3-2-16-3 おいて「3次元計測技術を用いた出来 3-2-16-3	
	土木工事共通	般施工	漢 工			(バックホウ浚渫船)		標高	較差	±0以下	+400 以下	形管理要領(案)河川浚渫工事編」に 基づき出来形管理を面管理で実施する 場合、その他本基準に規定する計測精	
	通編		共通			(面管理の場合)						度・計測密度を満たす計測方法により 出来形管理を実施する場合に適用す	
												る。 2. 個々の計測値の規格値には計測精	
												度として±100mm が含まれている。 3. 計測は平場面と法面(小段を含 む)の全面とし、全ての点で設計面と	
												の標高較差を算出する。計測密度は1 点/m2(平面投影面積当たり)以上と	
												する。	

-402-

編	章	節	条	枝番	工	種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木 工 東	2 一般 施工	18 床 版 工	2		床版工		基準高 ▽	±20	基準高は、1径間当たり2ヶ所(支点付近)で、1ヶ所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当たり3ヶ所、厚さは型枠設置時におおむね10㎡に1ヶ所測定。		3-2-18-2
事共通編							幅 w	$0\sim +30$	(床版の厚さは、型枠検査をもって代える。)		
							厚 さ t	$-10\sim +20$			
							鉄筋のかぶり	設計値以上	1 径間当たり3断面(両端及び中央) 測定。1 断面の測定箇所は断面変化毎 1 ヶ所とする。		
1							鉄筋の有効高さ	±10			出米
							鉄 筋 間 隔	±20	1径間当たり3ヶ所(両端及び中央) 測定。 1ヶ所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全 数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎 に2mの範囲を測定。		
							上記、鉄筋の有効 高さがマイナスの 場合	±10	10 2 川・グ・韓度四 と 1次1人。		出米形管埋基準及び規格値
							延 長 L L<20m L≧20m	±20 ±30			高

編	Ħ	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要	
6 河 川 編	丁 	1 築堤・護岸	7 法覆護岸工	4		護岸付属物工	幅 w 高 さ h	-30 -30	各格子間の中央部 1 ヶ所を測定。 「3 次元計測技術をを用いた出来形管 理要領(案)護岸工事編」の規定によ る測点の管理方法を用いることができ る。	w h	6-1-7-4	
6 沪川 編	ī] 	1 築堤・護岸	10 水制工	8		杭出し水制工	基準高 ▽ w 方 向	±50 ±300 ±7° -200	1 組毎		6-1-10-8	出来形管理基準及び規格値
6 河川 編	1	1 築堤・護岸	13光ケーブル配管工	3		配管工	埋 設 深 t	0∼+50 −200	接続部(地上機器部)間毎で全数。 【管路センターで測定】	(地上機器部) L 接続部 接続部 (地上機器部)	6-1-13-3 Ī	現格値

I -91 -404-

	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
	6 河川編	1 築 堤	13 光ケー、	4		ハンドホールエ	基準高 ▽	±30	1ヶ所毎 ※は現場打部分のある場合	t 3 T	6-1-13-4
	ЛУНН	護岸	ブル配管工				※厚さ t₁∼t₅	-20		t ₄	
			上				※幅 w ₁ , w ₂	-30		h ₁ h ₂ t ₅	
	0	0	-				※高さ h ₁ , h ₂	-30			2 2 5 2
	6 河川編	3 樋 門	5 樋 門	6	1	函渠工 (本体工)	基準高▽	±30	柔構造樋門の場合は埋戻前(載荷前) に測定する。	t ₅	6-3-5-6
		樋 管	樋管本体				厚 さ t ₁ ~t ₈	-20	函渠寸法は、両端、施工継手箇所及び 図面の寸法表示箇所で測定。 門柱、操作台等は、図面の寸法表示箇 所で測定。	t, 1 h1	
1			エ				幅 W ₁ , W ₂	-30	プレキャスト製品使用の場合は、製品 寸法を規格証明書で確認するものと し、『基準高』と『延長』を測定。	t4 +	
00							内空幅 w ₃	-30		t _s L ₆	
							内空高 h ₁	±30			
							延 長 L L<20m L≧20m	-50 -100		k L	
	6 河川編	3樋門・樋管	5 樋門・樋管	6	2	函渠工 (ヒューム管) (PC管) (コルゲートパイプ) (ダクタイル鋳鉄管)	基 準 高 ▽	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。		6-3-5-6
			本体工				延 長 L L<20m L≧20m	-50 -100	1 施工箇所毎		
L											

I -92 -405出来形管理基準及び規格値

	編	章	節	条	枝番	工 種	測定	項目	規格値	測	定基	準	測 定 箇 所	単位:mm 摘 要	
	7 河川海岸編	1堤防・護岸	5 護岸基礎工	5		場所打コンクリート工	基準幅高	高 ▽ w さ h	±30 -30 -30	施工延長 40m 50m)につき 1 50m)以下のも 2ヶ所。	ヶ所、延	長 40m (又は	L h w	7-1-5-5	
							延 法勾配 ⁶	長上の盟を	-0.5% ただし 最大-200 最小-50 ±0.5分	-					
	7 河 川	1 堤 防	5 護 岸	6		海岸コンクリートブ ロックエ		高 ▽	±50	ブロック個数 40 測定。基準高、 - (測点間隔 25 m	延長は施工	Ľ延長 40 m	/#	7-1-5-6	
	海岸編	· 護 岸	基礎工					ク厚 t 	-20 -20	1ヶ所、延長 40 ものは1施工箇	0m (又は	50m) 以下の			米出
I								ク横幅w ₂	-20						%管理基
-97							延	長 L	ー0.5% ただし 最大ー200 最小ー50						出来形管理基準及び規格値
							法勾配の	の開き	±0.5分						格値
	7 河 川	1 堤 防	6 護 岸	4		海岸コンクリートブ ロックエ	基準	高▽	±50	施工延長 40m 50m)につき 1 -50m)以下のも	ヶ所、延	長 40m (又は	\\\\\\\\\\\\\	7-1-6-4	
	海岸編	· 護 岸	工				法長 0	ℓ<5m	-100	2ヶ所。 「3次元計測技 要領(案)護岸			2/3/		
	AMIL	, ,						ℓ≧5m	ℓ× (−2%)	測点の管理方法 る。	を用いるこ	ことができ	t t		
							厚	さ t	-50	1					
							延	長 L	ー0.5% ただし 最大ー200 最小ー50						
							法勾配6	の開き	±0.5分						

-410-

	編	章	節	条	枝番	工 種	測定	項目	規格値	測	定 基	準	測	定	箇 所	摘要	
	7 河 川 海	1 堤 防	6 護岸工	5		コンクリート被覆工	基準	高▽	±50 ただし舗装面と接 する場合±30	50m) 以下の	1ヶ所、延長	₹40m (又は	Q/		-	7-1-6-5	
	海岸編	護岸	エ				法長ℓ	0<3m	-50	■2ヶ所。 「3次元計測: ■要領(案)護				, S.C.			
	ηνπ	产					,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	ℓ≧3m	-100	測点の管理方	法を用いるこ	とができ	Bee				
							厚さ t	t <100	-20					2//			
								t ≧100	-30				Ī		t'		
							裏込材	才厚 t'	-50				<u>, </u>				
							延	長 L	ー0.5% ただし 最大-200 最小-50								
							法勾配の	の開き	±0.5分	_							出
	7 河	1 堤	8 天	2		コンクリート被覆工	基準	高▽	±50	施工延長 40m 50m) につき	1ヶ所、延長	₹40m (又は	∏.	w		7-1-8-2	出来形管理基準及び規格値
I -	川海::	防・	端被一				幅	W	-50	50m) 以下の 2ヶ所。	ものは1施コ	二箇所につき):\	▽			理基
-98	岸編	護岸	覆 工				厚	さ t	-10						\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\		準及
							基礎	厚 t'	-4 5				1::1		v		び規
							延	長 L	ー0.5% ただし 最大ー200 最小ー50								格値
	7 河	1 堤	9 波	3		波返工	基準	高▽	±50	施工延長 40m 50m) につき	1ヶ所、延長	₹40m (又は		w ₁ w ₂		7-1-9-3	
	海	防•	返 工				幅	W ₁ , W ₂	-30	50m) 以下の 2ヶ所。	ものは1施コ	[箇所につき	 	 -	<u> </u>		
	岸 編	護岸						h < 3m n ₂ , h ₃	-50				h ₁)	h ₂ h ₃		
							1 1	$h \ge 3m$ h_2, h_3	-100								
							延	長 L	-0.5% ただし 最大-200 最小-50				<i>\</i> /				

-411-

単位:mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	単位:mm 摘 要
10 道路編	2 舗 装	5 排水構造物工	9		排水性舗装用路肩排水 工	基準高▽	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1ヶ所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2ヶ所。 なお、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)舗装工事編 計測技術(断面管理の場合)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		10-2-5-9
						延 長 L	-200	1ヶ所/1施工箇所 なお、従来管理のほかに「3次元計測 技術を用いた出来形管理要領(案)舗 装工事編 計測技術(断面管理の場 合)」の規定による測点の管理方法を 用いることができる。		
10 道 路	2 舗 装	7 踏 掛	4		踏掛版工 (コンクリートエ)	基準高	±20	1ヶ所/1踏掛版		10-2-7-4
編	- AX	版工				各部の厚さ	±20	1ヶ所/1踏掛版		
						各部の長さ	±30	1ヶ所/1踏掛版		
					(ラバーシュー)	各部の長さ	±20	全数		
						厚き	_			
					(アンカーボルト)	中心のずれ	±20	全数		
						アンカー長	±20	全数		
10 道 路	2 舗 装	9 標 識	4	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅 \mathbf{w}_1 , \mathbf{w}_2	-30	基礎一基毎	<u>w</u> 1	10-2-9-4
編	- AX	工			(1示) 以 全) 处 上)	高 さ h	-30		$\int_{\mathbb{W}_2} \mathbb{O}$	
						基準高	道路に接する場合 ±30		w ₂	
									h	
10 道	2 舗	9 標	4	2	大型標識工	設置高さ H	設計値以上	1ヶ所/1基		10-2-9-4
路編	装	識工			(標識柱工)			1		
									н	

-432**-**

	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	海 要	
	10 道路編	2 舗装	12 道路付属施設工	5	1	ケーブル配管工	埋 設 深 t 延 長 L	0~+50 −200	接続部間毎に1ヶ所 接続部間毎で全数	### (地上機器部) (地上機器部)	10-2-12-5	
I - 119	10 道路編	2 舗装	12 道路付属施設工	5	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	基準高▽ ※厚さ t ₁ ~t ₅ ※幅 w ₁ , w ₂ ※高さ h ₁ , h ₂	±30 -20 -30 -30	1ヶ所毎 ※印は、現場打ちのある場合	t ₃ w ₁ t ₄ t ₁ w ₂ t ₂ h ₁ h ₂ t ₅	10-2-12-5	出来形管理基準及び規格値
	10 道 路 編	2 舗装	12 道路付属施設工	6		照明工(照明柱基礎工)	幅 w 高 さ h	-30 -30	1ヶ所/1施工箇所		10-2-12-6	

-433-

絲	章	節	条	枝番	工	種	測	」 定 項 目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	単位:mm 摘 要
1 道 路	植橋	橋	8		橋台躯体工		基	. 準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋	ws ws ws ws	10-3-6-8
解	第 下 部						厚	t à t	-20	相扱さ形状の詳細については「追路橋 支承便覧」による。 なお、従来管理のほかに「3次元計測	hall hall hall hall hall hall hall hall	
							天	端 幅 W ₁ (橋軸方向)	-10	技術を用いた出来形管理要領(案)構造物工編(試行)」で規定する出来形	t hi	
							天	端 幅 w ₂ (橋軸方向)	-10	計測性能を有する機器を用いることが 出来る。(アンカーボルト孔の鉛直度 を除く)	w ₃ w ₃	
							敷	幅 w ₃ (橋軸方向)	-50	()	w ₂ w ₁	
							高	さ h ₁	-50		h _t Th: TTh:	
							胸	壁の高さ h2	-30		+ + + + + + + + + + + + + + + + + + + +	
							天	E 端 長 ℓ₁	-50		. ws	
							敷	長 ℓ2	-50		<u> </u>	
_							形	対壁間距離 ℓ	±30			
<u> </u>								刊長及び 中心線の変位	±50			
							支承部アンカ	計画高	+10~-20		CL L1	
							ーボルトの	平面位置	±20		L2 中心線の変位 (a 1: 橋軸直角方向) (a 2: 橋軸方向) a2	
							箱抜き規格値	アンカーボルト孔の 鉛直度	1/50以下			

I - 12

-436-

H
朱
宏
啷
屈
棋
丰
及
Ğ
鴱
裕
盲

													単位:	mm
j	編	章	節	条	枝番	エ	種	浿)定	項目	規	格値	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要	
-	10 道 路編	3 橋梁下	7 R C 橋	9	1	橋脚躯体工 (張出式) (重力式)		基	生 準	高▽		±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋 支承便覧」による。	
		部	脚 工			(半重力式)		厚	Į	さ t		-20	なお、従来管理のほかに「3次元計測 技術を用いた出来形管理要領(案)構	
								天	端 (橋軸)	幅 w ₁ 方向)		-20	造物工編(試行)」で規定する出来形 計測性能を有する機器を用いることが 出来る。(アンカーボルト孔の鉛直度	
								敷	ないでは、	幅 w ₂ 方向)		-50	を除く)	
								直	1	さ h		-50	k _{wz} √ k _{g2} √ †	
								尹	天 端	長 01		-50		
								敷	敗	長 ℓ2		-50		
- - 1								橋脚	却中心間	『距離 ℓ		±30		
123								支	え 間 長 中心線の	を 及 び の変位		±50	CL L1	
								支承部アン	iii E	計画高	+1	0~-20		
								カーボル					中心線の変位 (a 1 : 橋軸直角方向) (a 2 : 橋軸方向)	
								トの	¥	面位置		±20	a1 a2	
								箱抜き規格値		-ボルト孔の 鉛直度	1/	50 以下		
									<u> </u>					

, L

	編	章	節	条	枝番	工 種	浿	定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	単位:mm 摘 要
ŀ	10 道 路	3 橋梁	7 R C	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)	基	準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋	₩1 ** 1	10-3-7-9
	編	不下部	橋脚				厚	ヹ さ t	-20	支承便覧」による。 なお、従来管理のほかに「3次元計測	T	
			工				天	端 幅 W ₁	-20	技術を用いた出来形管理要領(案)構造物工編(試行)」で規定する出来形	h 3 t	
							敷	u 幅 W ₂	-20	計測性能を有する機器を用いることが 出来る。 (アンカーボルト孔の鉛直度 を除く)	⟨ _{W2} →	
							启	らった idea h	-50	C PA ()		
							£	き さ 0	-20		h HtHtHt	
							橋脚	却中心間距離 0	±30		W ₂ W ₂ W ₂	
							支	え間 長 及 び 中心線の変位	±50		婚 野中心間距離	
I							支承部アンカ	計画高	+10~-20		**************************************	
-124							ーボルトの	平面位置	±20		中心線の変位 (a1:橋軸直角方向) (a2:橋軸方向)	
							箱抜き規格値	アンカーボルト孔の 鉛直度	1/50以下		a1 a2	
-	10 道	3 橋	8	9	1	橋脚フーチングエ	基	準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。	57 N	10-3-8-9
	路編	梁下部	製橋脚			(I 型・T型)	帕	i w (橋軸方向)	-50		Z → + h	
		нь	Ĭ				启	i à h	-50		()!!() 	
							ŀ	き さ 0	-50		<u> </u>	
											k w → T · · ·	

I -124 -438-

ĺ									1		単位:mm	
	編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要	
	10 道路	3 橋梁	8 鋼 製	9	2	橋脚フーチング工(門型)	基準高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。		10-3-8-9	
	編	不下部	橋 脚			(11)	幅 W ₁ , W ₂	-50		h ♣ 🗀 		
			I				高 さ h	-50				
										k→ k→ wz wz		
	10 道 路	3 橋 梁	8 鋼	10	1	橋脚架設工	基 準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。		10-3-8-10	
	編	架 下 部	製 橋 脚			(I型・T型)	橋脚中心間距離 Q	±30				
			I				支間長及び 中心線の変位	±50				ГГ
										(a 2 : 橋軸方向) a1 a2		出来形
												6管理
I - 1										\mathbb{H}		基準
125	10 道 路	3 橋	8 鋼 製	10	2	橋脚架設工 (門型)	基 準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。		10-3-8-10	出来形管理基準及び規格値
	編	梁下部	橋 脚			(11主)	橋脚中心間距離 0	±30				!格値
			I				支 間 長 及 び 中心線の変位	±50				
										中心線の変位 (a 1:橋軸直角方向) (a 2:橋軸方向)		
										a1 a2		
	10 道路	3 橋	8 鋼 製	11		現場継手工	現場継手部のすき間 δ1,δ2 (mm)	5 ※ ±5	主桁、主構の全継手数の 1/2 を測定。 ※は耐候性鋼材(裸使用)の場合		10-3-8-11	
	編	梁下部	橋 脚									
			I									

-439-

出来形管理基準及び規格値

	1		1	1	T	1		Ī		Ī				1				単位:mm
編	章	節	条	枝番	工 種	浿	定項 目	規	格値	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘要
10 道 路 編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	9		橋梁用高欄製作工	部材	部材長ℓ(m)	±3···ℓ≤10 ±4···ℓ>10		図面の寸法表	示箇所	で測定	0					10-4-3-9
10 道路編	4 鋼橋上部	15鋼橋架設工	10	1	支承工(鋼製支承)	水 平 度	据付け高さ 注 1) 「動支承の移動 可能量 注 2) 支承中心間隔 橋軸直角方向) 「動支承の橋軸 方向車乗車の橋軸 方向車がれる。 「可力承線上の 相対誤差 「動支承の	コンクリート 橋 ±5 1/10	±5 計移動量以上 鋼橋 ±(4+ 0.5×(B- 2)) 0 5 伴う移動量計算 1/2 以上	支B 支はるる 注測注測を承す注設詳承: 承、。場 1)定2)し考便る3)完細を中 平田 を 先る 動承 て 関係、 して の しん で して しょう で しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう	間 法高承。 の 承付移値 承施 の時動を のす が低を 場 の時動を のす 移る)Omm り を配 は、 間才能た 動量 は、 しなもない。 しょう はない。 しょう はない。 しょう はない。 しょう はない。 しょう	以下とすけ 承上 Lb)ト路を を量橋確 架 な、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、					10-4-5-10
10 道	4 鋼	5 鋼	10	2	支承工		能確認 注 :) 据付け高さ 注 1)		±5	支承全数を測 B:支承中心		m)						10-4-5-10
路編	橋上部	橋架設工			(ゴム支承)	水平度	「動支承の移動可能量 注 2) 支承中心間隔 橋軸直角方向 橋軸直角方向 「動支承の橋軸方向を承認との相対誤差 可動支承の総認 注 3)	コンクリート 橋 ±5 1/30 温度変化に	動量以上 鋼橋 ±(4+0.5 ×(B-2)) 0 5 (伴う移動量計算 1/2 以上	上接と認支はるろ注測注測を承す注設詳部触の。承、。場1)定2)し考便る3)完細構面接の水な合・す、慮覧。 了は造及触 平平おか先る可支しの 可後の 可ない面 面面、除固。動承に規 動に道が近に 寸の支く定 支据、格 支実路	ム肌 法高承 の 承付移値 承施支す が低を 場 の時動を のす承き 30差勾 合 遊の可満 移る	とが 00mm 1mm り を配 は、間才能た 動を座い 以mmり 支 La,セがこ 検	モルと 場とけ で 計δ支認 架 に かん かん かん かん かん かん かん かん かん かん かん かん かん					

							II.	1		単位:mm
編	章	節	条	枝番		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
10 道 路 編	4 鋼橋 上部	8橋梁付属4	3		落橋防止装置工	アンカーボルト孔の削 孔長	設計値以上	全数測定		10-4-8-3
		物工				アンカーボルト定着長	-20 以内 かつ -1D以内	全数測定 D:アンカーボルト径 (mm)		
10 道 路 編	4 鋼 橋	8 橋梁	5		地覆工	地覆の幅 W ₁	$-10\sim +20$	1径間当たり両端と中央部の3ヶ所測 定。	W1 W2	10-4-8-5
編	上部	付 属 物				地覆の高さ h	$-10\sim +20$		T h	
		工				有効幅員 w ₂	0~+30			
										光 参
10 道路編	4 鋼 橋	8 橋梁	6 7		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	天 端 幅 w1	$-5\sim+10$	1 径間当たり両端と中央部の 3 ヶ所測 定。	8	10-4-8-6 10-4-8-7
編	上部	付属物				地 覆 の 幅 w2	$-10\sim +20$		h 1	· 洋
		工				高 さ h1	$-20\sim +30$			
						高 さ h2	$-10\sim +20$		_ W1 W3	
						有 効 幅 員 w3	0~+30		hi	
									Ţh2	
10 道路編	4 鋼 橋	8 橋梁	8		検査路工	幅	±3	1 ブロックを抽出して測定。		10-4-8-8
編	上部	付 属 物				高さ	±4			
		工								

I - 127

-441-

ГГ
H
米
狀
卿
屈
丼
糾
及
7
び規:
現
格
盲

	編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	単位:mm 摘 要
	10 道 路	5コン	6 プ レ	2		プレビーム桁製作工 (現場)	幅 w	±5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッ シング後に測定。	<u> </u>	10-5-6-2
	編	クリート	ビーム桁				高 さ h	10	桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央 部の3ヶ所とする。 ℓ:スパン長	h	
		橋上部	橋工				桁 長 Q スパン長	ℓ<15…±10 ℓ≥15… ± (ℓ−5) かつ −30mm 以内		↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	
							横方向最大タワミ	0.80			
I - 128	10 道路編	6 トンネル (NATM)	4 支保工	3		吹付工	吹付け厚さ	上。ただし、良好 な岩盤で施工端 部、突出部等の特 殊な箇所は設計吹	施工延長 40m毎に図に示す。 (1)~(7)及び断面変化点の検測孔を測定。 注)良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準(構造編)にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。	(2) (1) ^C (3) 度 エコンクリート 吹付コンクリート (4) (5) S. L. (7) (7) インパート	10-6-4-3
	10	6	4	4		ロックボルト工			施工延長 40m毎に断面全本数検測。		10-6-4-4
	道路編	トンネ	支保				位置関係	_			
	小相	ν N	エ				角 度	_			
		A T M					削孔深さ	_			
							孔 径	_			
							突 出 量	プレート下面 から 10cm 以内			

-442-

i	章	節	条	枝番	工	種	測気	官項 目	規格値	測	定	基	準		測	定	箇	所	摘 要	
) <u>Î</u>	6 ト ン	5 覆 工	3		覆工コンク	リートエ	基準高	▽ (拱頂)	±50	(1) 基準高、 つき 1 ヶ所。 (2) 厚さ	幅、高	高さは、	施工 40mに	t 🗼					10-6-5-3	
i	ンネル	工					幅 v	w(全幅)	-50	(イ) コンク 1 打設長の	終点を	図に示	の巻立空間を よす各点で測		(2)	L (3)	覆エコン	クリート		
	Ñ A T						高さl	ı (内法)	-50	定。			ト打設口で測 覆エコンク	(4)	JL I		(5) s_t_ (7)			
	$\stackrel{1}{\underbrace{\mathrm{M}}}$						厚	さ t	設計値以上	リートについ 継手の位置)	ヽて 1 扌 におレ	丁設長∅	復エコンク り端面(施工 図に示す各点	0.00		T)	(17:			
							延	長 L	_	の巻厚測定を (ハ) 検測孔(一は 40mに 1.2	こよる巻		定は図の(1) は100mに1		e v	V				
										ヶ所の割合で なお、トン	で行う。 マネル延	長が 10	00m以下のも							
										のについてに 所以上の検測 ただ1. じ	乳化によ	る測定								
										格値は適用隊 ・良好な地口	除外とす 山におり	る。 tる岩ス	又は吹付コン							Œ
										厚の3分の1	以下の	もの。	で、設計覆工るものに限							来形管理基準
										る。 ・異常土圧	こよる覆	夏工厚る	下足で、型枠							車建
										の据付け時に 途構造的にする場合。			忍されかつ別 雀認されてい							基準及
										出。			ケボルトの突							び規
										計測手法につかに「3次元計測要領(第	E計測技	術を用								及び規格値
										定する出来刑 測性能を有す 来る。		を用い	ることが出							
) î	6 ト	5 覆	5		床版コンク	リートエ	幅	W	-50	施工延長 40r 50m) につき									10-6-5-5	
i	ンネル	Ĭ					厚	さ t	-30	50m) 以下の 2ヶ所。										
	\widehat{N}																			
	A T M																			
]		1											

10 道路編

編

10 道路編

工	種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	試験成 績表等 による 確認
4 プレ トコンク 製品 (その他)	フリート	材料	必須	コンクリートの圧縮 強度試験	JIS A 1108	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均値)	1回/日以上		0
				コンクリートの空気 量測定 (凍害を受ける恐れの あるコンクリート製 品)	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	JIS A 5364 4.5±1.5%(許容差)	1回/日以上		0
			その他(J‐	骨材のふるい分け試験(粒度、粗粒率)	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	JIS A 5364 JIS A 5308	1回/月以上及び産地が変わった場合。		0
			ISマーク表示されたレデ	骨材の密度及び吸水 率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	JIS A 5364 JIS A 5308	1回/月以上及び産地が変わった場合。	JIS A 5005 (砕石及び砕砂) JIS A 5011-1 (高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (フェロニッケルスラケ 細骨材) JIS A 5011-3 (銅スラグ細骨材) JIS A 5011-4 (電気炉酸化スラケ 細骨材) JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材相)	0
			ルンディ	粗骨材のすりへり試 験	JIS A 1121 JIS A 5005	JIS A 5364 JIS A 5308	1回/月以上及び産地が変わった場合。		0
			ーミクストコンクリー	骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005	粗骨材: 1.0%以下 細骨材: コンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合3.0%以下、その他の場合5.0%以下 (砕砂およびスラグ細骨材を用いた場合はコンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合5.0%以下 それ他の場合7.0%以下)	1回/月以上及び産地が変わった場合。 (微粒分量の多い砂1回/週以上)		0
			トを使用する場合は除	砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。	1回/年以上及び産地が変わった場合。	濃い場合は、JISA1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	
			る場合は	骨材中の粘土塊量の 試験	JIS A 1137	細骨材: 1.0%以下 粗骨材: 0.25%以下	1回/月以上及び産地が変わった場合。		0
			除く	硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材:10%以下 粗骨材:12%以下	砂、砂利 製作開始前、1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。 砕砂、砕石 製作開始前、1回/年以上及び産地が変わった場合。		0

	武教区がは必要に応して加速値小りること						- 00	
工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成 績表等 による 確認
15 表層安定処理工(表層混合処理)	材料	その他	土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	設計図書による。	当初及び土質の変化したとき。	配合を定めるための試験である。	
	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法(3種 類)のいずれかを実施 する。	最大粒径≦53mm:砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径>53mm:舗装調查・ 試験法便覧[4]-185突砂法	設計図書による。	500m3につき1回の割合で行う。 但し、1,500m3未満の工事は1工事当たり3回以上。 1回の試験につき3孔で測定し、3孔の最低値で判定を行う。		
15 表層安定処理工(表層混合処理)				または、 RI計器を用いた盛土の締固め 管理要領(案)	設計図書による。	盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位ごとに管理を行うものとする。 1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500m2を標準とし、1日の施工面積が2,000m2以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。 ・500m2未満:5点 ・500m2以上1,000m2未満:10点 ・1,000m2以上2,000m2未満:15点	・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員との協議の上で、(再) 転王	
				または、 「TS・GNSSを用いた盛 土の締固め管理要領」による	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定 回数だけ締め固められたことを確認する。ただし、 路肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造 物周辺は除く。	1. 盛土を管理する単位(以下「管理単位」)に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500m2を標準とする。また、1日の施工面積が2,000m2以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。		
			プルーフローリング	舗装調査·試験法便覧[4]-288		路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。	・荷重車については、施工時に用いた転圧 機械と同等以上の締固効果を持つローラ やトラック等を用いるものとする。	

試験区分は必要に応じて別途指示すること。

工	種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	試験成 績表等 による 確認
18 補	強土壁工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	当初及び土質の変化時。		
		11	<i>7</i> x	外観検査(ストリップ、鋼製壁面材、コンクリート製壁面材等)	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。		
				コンクリート製壁面 材のコンクリート強 度試験	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。		0
			その他	土の粒度試験	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。	設計図書による。		
(次項)	二続く)	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法(3種 類)のいずれかを実施 する。	最大粒径≦53mm: 砂置換法 (JIS A 1214) 最大粒径>53mm:	次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の95%以上。 (締固め試験(JIS A 1210)A・B法) もしくは、90%以上 (締固め試験(JIS A 1210)C・D・E法)。または、設計図書による。	1 /	橋台背面アプローチ部における規格値は、下記のとおりとする。 (締固め試験(JIS A 1210)C・D・E法) 【一般の橋台背面】 平均92%以上、かつ最小90%以上 【インテグラルアバット構造の橋台背面】 平均97%以上、かつ最小95%以上	

表-2 品質管理基準 第1 一般土木工事の部

		試験区分は必要に応じて別途指示するこ					. ∠₀		
I.	種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘 要	試験成 績表等 による 確認
8 補強	计壁工	施工	必須		または、 「RI計器を用いた盛土の締固 め管理要領(案)」	次の密度への総固めが可能な範囲の含水比において、1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の97%異常(締固め試験(JIS A 1210)C・D・E法)。 または、設計図書による。	盛土を管理する単位(以下「管理単位」に分割して管理単位ごとに管理を行うものとする。 路体・路床とも、1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500m2を標準とし、1日の施工面積が2,000m2以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を下表に示す。・500m2末満:5点・500m2以上1000m2末満:10点・1000m2以上2000m2末満:15点	・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。 ・橋台背面アプローチ部における規格値は、下記の通りとする。	
					または、 「TS・GNSSを用いた盛 土の締固め管理要領」による	施工範囲を小分割した管理プロックの全てが規定 回数だけ締固められたことを確認する。ただし、路 肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物周 辺は除く。	2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500m2を標準とする。また、1日の施工面積が2,000m2以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3.1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。		
9 吹付	T	材料	必須	アルカリシリカ反応 抑制対策	「アルカリ骨材反応抑制対策 について」(平成14年11月21 日14高土企第264号付け土木 部長通知)による」	「アルカリ骨材反応抑制対策について」(平成14年 11月21日14高土企第264号付け土木部長通知)によ る」	骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中 1回/6ヶ月以上および産地が変わった場合。		0

表-3写真管理基準

第1 一般土木工事の部 1 撮影箇所一覧表

区分	工種		管理項目	摘要
		撮影項目	撮影頻度[時期]	順女
着手前•完成	着手前	全景又は代表部分	着手前1回	
		写真	〔着手前〕	
	完成	全景又は代表部分	施工完了後1回	
		写真	〔完成後〕	
施工状況	工事施工中	全景又は代表部分	月1回	
		の工事進捗状況	〔月末〕	
		施工中の写真	工種、種別毎に設計図	
			書、施工計画書に従い施	
			エしていることが確認で	
			きるように適宜	
			〔施工中〕	
			創意工夫・社会性等に	創意工夫・社会性等に関
			関する実施状況が確認	する実施状況の提出資
			できるように 適 宜	料に添付
			〔施工中〕	
	仮設(指定仮設)	使用材料、仮設状況、	1施工箇所に1回	
		形状寸法	〔施工前後〕	
	図面との不一致	図面と現地との不一致	必要に応じて	工事打合簿に添付する
		の写真	〔発生時〕	
			 ただし、「3次元計測技術	
			を用いた出来形管理要領	
			(案)における空中写真測	
			量(UAV)」による場合は、	
			量(0人(7)]による場合は、	
			使用したすべての画像	
			(ICON フォルダに格納))	
			[発生時]	
			(光王時)	
			 ただし、「3次元計測技術	
			たたし、「3次九計別投制 を用いた出来形管理要領	
			(案)における地上型レー	
			「栄力における地工型レー サースキャナー(TLS)、地	
			上移動体搭載型レーザー	
			スキャナー(地上移動体	
			搭載型LS)、無人航空機	
			搭載型レーザースキャナ	
			ー(UAVレーザー)、TS(ノ	
			ンプリズム方式)、TS等光	
			波方式、RTK-GNSS」によ	
			る場合は、計測毎に1回	
			[発生時]	

1 撮影箇所一覧表

1 撮影箇所一覧表							
区分	工種	写真管理項目		摘要			
安全管理	安全管理	撮影項目 各種標識類の設置状	撮影頻度〔時期〕 各種類毎に1回				
女王旨 任	· 女王旨任	日性宗職類の改造が	古程規母に「団 ここでである。 ここでである。				
		<u>パ</u> 各種保安施設の設置	各種類毎に1回				
		谷種保女施設の設置 状況	日本程規サに「四 ここでである。 「設置後」				
		監視員交通整理状況 	各1回				
		ウム制は答の中佐は江	[作業中]	中长山沟水州上五八			
		安全訓練等の実施状況	実施毎に1回	実施状況資料に添付			
# FD ++ 4/4	# m ++ \\\\	T/ 11 -1 >+ >// 1	〔実施中〕	する。			
使用材料	使用材料 	形状寸法※1	各品目毎に1回	品質証明に添付する。			
		使用数量※2	[使用前] 	※1 コンクリート二次製品で			
		保管状況 		JIS 認定製品は「全景」及			
				び製品に印字されている			
				「製造会社」「規格種別」			
				「製造年月日」「JIS マーク」			
				の判読できる写真撮影が			
				可能な場合は省略するこ			
				とができる。			
				※2 コンクリート二次製品で、			
				施工後、使用数量が目視			
				確認できるものは省略す			
				ることができる。			
		品質証明	各品目毎に1回				
		(JIS マーク表示)					
		検査実施状況	各品目毎に1回〔検査時〕				
品質管理	2 品質管理写真撮影	/ 箇所一覧表に準じて撮影					
出来形管理	3 出来形管理写真描	最影箇所一覧表に準じて撮影					
災害	被災状況	被災状況及び被災規模	その都度 〔被災前〕				
		等	〔被災直後〕				
			〔被災後〕				
事故	事故報告	事故の状況	その都度 〔発生前〕	発生前は付近の写真で			
			〔発生直後〕	も可			
			〔発生後〕				
補償関係外	補償関係	被害又は損害状況等	その都度 〔発生前〕				
			〔発生直後〕				
			〔発生後〕				
	環境対策	各施設設置状況	各種毎1回				
	イメージアップ等		〔設置後〕				
L	I.	1	l.	<u>l</u>			

【第10編 道路編】

	章、節	条	枝番	準用する写真管理基準	頁
第6節	排水構造物工	10-16-6-3側溝工		3-2-3-29側溝工	Ⅲ −8
		10-16-6-4管渠工		3-2-3-29側溝工	Ⅲ −8
		10-16-6-5集水桝・マンホー ルエ		3-2-3-30集水桝工	Ⅲ −8
		10-16-6-6地下排水工		3-2-3-29暗渠工	Ⅲ −8
		10-16-6-7場所打水路工		3-2-3-29場所打水路工	Ⅲ −8
		10-16-6-8排水工		3-2-3-29側溝工	Ⅲ −8
第7節	縁石工	10-16-7-3縁石工		3-2-3-5縁石工	$\Pi - 4$
第8節	防護柵工	10-16-8-3路側防護柵工		3-2-3-8路側防護柵工	$\Pi - 4$
		10-16-8-4防止柵工		3-2-3-7防止柵工	$\Pi I = 4$
		10-16-8-5ボックスビーム工		3-2-3-8路側防護柵工	$\Pi - 4$
		10-16-8-6車止めポストエ		3-2-3-7防止柵工	III-4
第9節	標識工	10-16-9-3小型標識工		3-2-3-6小型標識工	$\Pi - 4$
		10-16-9-4大型標識工		10-2-9-4大型標識工	Ⅲ −45
第10節	区画線工	10-16-10-2区画線工		3-2-3-9区画線工	$\Pi - 4$
第12節	道路付属施設工	10-16-12-4道路付属物工		3-2-3-10道路付属物工	Ⅲ −5
		10-16-12-5ケーブル配管工		10-2-12-5ケーブル配管工	III − 45
		10-16-12-6照明工		10-2-12-6照明工	III − 45
第14節	擁壁工	10-16-14-3場所打擁壁工		3-2-15-1場所打擁壁工	Ⅲ −26
		10-16-14-4プレキャスト擁 壁工		3-2-15-2プレキャスト擁壁 エ	Ⅲ −26
第15節	石・ブロック積(張)工	10-16-15-3コンクリートブ ロック工		3-2-5-3コンクリートブロッ クエ	Ⅲ −10
		10-16-15-4石積(張)工		3-2-5-5石積(張)工	Ⅲ −11
第16節	カルバート工	10-16-16-4場所打函渠工		10-1-9-6場所打函渠工	Ⅲ −43
		10-16-16-5プレキャストカ ルバートエ		3-2-3-28プレキャストカル バートエ	Ⅲ -8
第17節	法面工	10-16-17-2植生工		3-2-14-2植生工	Ⅲ −25
		10-16-17-3法面吹付工		3-2-14-3吹付工	III - 25
		10-16-17-4法枠工		3-2-14-4法枠工	III - 25
		10-16-17-6アンカーエ		3-2-14-6アンカーエ	Ⅲ −25
		10-16-17-7カンごエ	じゃかご	3-2-3-27じゃかご	III-7
			ふとんかご	3-2-3-27ふとんかご、かご枠	□ -7
第18節	落石雪害防止工	10-16-18-4落石防止網工		10-1-11-4落石防止網工	Ⅲ −43
		10-16-18-5落石防護柵工		10-1-11-5落石防護柵工	Ⅲ —43
		10-16-18-6防雪柵工		10-1-11-6防雪柵工	Ⅲ —43
		10-16-18-7雪崩予防柵工		10-1-11-7雪崩予防柵工	Ⅲ − 43
	鋼桁工	10-16-20-3鋼桁補強工		10-16-3-4桁補強材製作工	Ⅲ −51
第21節	橋梁支承工	10-16-21-3鋼橋支承工		6-4-9-10支承工	Ⅲ −28
		10-16-21-4 P C橋支承工		6-4-9-10支承工	Ⅲ −28
第22節	橋梁付属物工	10-16-22-4落橋防止装置工			Ⅲ −52
		10-16-22-6地覆工		6-4-12-4地覆工	Ⅲ −28
		10-16-22-7橋梁用防護柵工		6-4-12-5橋梁用防護柵工	Ⅲ −28
		10-16-22-8橋梁用高欄工		6-4-12-6橋梁用高欄工	Ⅲ −28
		10-16-22-9検査路工		6-4-12-7検査路工	Ⅲ −28
第25節	現場塗装工	10-16-25-3橋梁塗装工		3-2-3-31現場塗装工	Ⅲ −8
		10-16-25-6コンクリート面 塗装工		3-2-3-11コンクリート面塗 装工	Ⅲ −5

【第1編 共通編】

※撮影頻度

				14			T	ま 「施工箇所に〇回」は、頻度の多い力を採り 写真管理項目	
編	章	節	条	枝番	エ	種		撮影頻度[時期]	摘要
1	2	3	2		掘削工		地影場日	地質が変わる毎に1回	
1 共通編	2 土 工	河川	_		1年月1二		別	地質が多わる母に1回 [掘削中]	
編		海					法長※右のいず	40mに1回又は1施工箇所に1回 〔掘削後〕	
		岸・砂防土工					れかで撮影する。	「3次元計測技術を用いた出来形管 理要領(案)土工編 多点計測技術 (面管理の場合)」による場合は1工 事に1回 〔掘削後〕	・え・設と計点リ置(が場みかに出のS置出測上、状『必合)る撮来撮等状来対のム状ス要(がよ影ば影の況形象『設況』なのわう
								「3次元計測技術を用いた出来形管 理要領(案)土工編 多点計測技術 (面管理の場合)における空中写真 測量(UAV)」に基づき写真測量に用 いた画像を納品する場合には、写真	
L_					盛土工		巻出し厚	管理に代えることが出来る。	
1 共通編	2 土 工	3 河川・	3		盆工工		を出し序	40mに1回 〔巻出し時〕 「TS・GNSSを用いた盛土の締固め 管理要領」における「締固め層厚分	
		海岸・					(本田 仏 井 川	布図」を提出する場合は写真不要	
		砂 防					締固め状況 	転圧機械又は地質が変わる毎に1 回 〔締固め時〕	
		土工					法長 幅	40mに1回又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	
							※右のいず れかで撮影 する。	「3次元計測技術を用いた出来形管 理要領(案)土工編多点計測技術 (面管理の場合)」による場合は1工 事に1回	・出来ば えの撮影 ・TS等の 設置状況 と出来形
								〔施工後〕	計点リ置(が場みかに 測上、状『必合がようる撮影では、対のムは、対ののでは、では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、
								「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)土工編 多点計測技術 (面管理の場合)」に基づき写真測量に用いた画像を納品する場合には、 写真管理に代えることが出来る。	

【第1編 共通編】

※撮影頻度

				枝		·omergal	写真管理項目	
編	章	節	条	枝 番	エ 種	撮影項目	撮影頻度[時期]	摘要
1 共通編	2 ± エ	3 河川・海岸・	4		盛土補強工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土 工法)	福強材の長さ	40mに1回又は1施工箇所に2回 〔施工後〕 各段長さが変わる毎に1回 〔施工後〕	
	0	砂防土工	-		计 本		40. 15.1 同双体1 恢 工 签 元 15.1 同	
1 共通編	2 ± I	3河川・海岸・砂防土エ	5		法面整形工 (盛土部)	仕上げ状況厚さ	40mに1回又は1施工箇所に1回 〔仕上げ時〕	
1 共通編	2 ± I	1 3 河川・海岸・砂	6		堤防天端工	厚さ	200mに1回又は1施工箇所に2回 [施工後]	
		防土工				幅	40mに1回又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	
1 共通編	2 ± エ	4 道路:	2		掘削工	土質等の判 別	地質が変わる毎に1回 〔掘削中〕	
編		エ				法長 ※右のいず れかで撮影	40mに1回又は1施工箇所に1回 〔掘削後〕	
						する。	「3次元計測技術を用いた出来形管 理要領(案)土工編 多点計測技 術(面管理の場合)」による場合は1 工事に1回 [掘削後]	・え・設と計点り置(が場みかに出のTS置出測上なり必分)る撮来撮等状来対のな状り必合がよ影ば影の況形象プ設況なのわう
							「3次元計測技術を用いた出来形管 理要領(案)土工編 多点計測技術 (面管理の場合)」に基づき写真測量 に用いた画像を納品する場合には、 写真管理に代えることが出来る。	

【第1編 共通編】

※撮影頻度

				±±			写真管理項目	
編	章	節	条	枝 番	工 種	—————————————————————————————————————	撮影頻度[時期]	摘要
1 共通編	2 ± エ	4 道路土工	3 4		路体盛土工 路床盛土工 埋戻工	巻出し厚	40m毎3層に1回近撮と全景 〔巻出し時〕 「TS・GNSSを用いた盛土の締固め 管理要領」における「締固め層厚分 布図」を提出する場合は写真不要 転圧機械又は地質が変わる毎に1	
						法長 幅 ※右のいず れかで撮影 する。	回及び3層に1回近撮と全景 [締固め時] 40mに1回又は1施工箇所に1回 (施工後] 「3次元計測技術を用いた出来形管 理要領(案)土工編 多点計測技 術(面管理の場合)」による場合は1 工事に1回	・出来ば えの撮影 ・TS等の 設置状況
							[施工後]	と計点り置(が場みかに出測上、状心必合がようる撮い来対のは、状心必合がよ影い来対のはないない。
							「3次元計測技術を用いた出来形管 理要領(案)土工編 多点計測技術 (面管理の場合)」に基づき写真測量 に用いた画像を納品する場合には、 写真管理に代えることが出来る。	
1 共通編	2 ± エ	4道路土工	5		法面整形工 (盛土部)	仕上げ状況 厚さ	40mに1回又は1施工箇所に1回 〔仕上げ時〕	
1 共通編	3無筋、鉄筋	7 鉄筋工	4	1	組立て	平均間隔	コンクリート打設毎に1回 (重要構造物かつ主鉄筋について適用)	
	鉄筋コンクリート					かぶり	コンクリート打設毎に1回 (重要構造物かつ主鉄筋について適用)	
1 共通編	3無筋、鉄筋コンクリート	7 鉄筋工	4	2	組立て ※新設のコンクリート構造物の内、 橋梁上部工事と下部工事	非破壊試験 (電磁誘導 法、電磁 レーダ法)	試験毎に1回 〔試験実施中〕	

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

	_		_	枝			写真管理項目	摘
編	章	節	条	枝番	工 種		撮影頻度[時期]	要
3 ±	2	4 基	7		オープンケーソン基礎エ	沓	1基毎に1回 〔据付後〕	
土木工事共通編	般施工	礎工				ケーソンの長さ ケーソンの幅 ケーソンの高さ ケーソンの壁厚 偏心量 鉄筋組立状況	1ロット毎に1回 〔設置後及び型枠取外し後〕	
						載荷状況	1基に1回 〔載荷時〕	
						封鎖コンクリート 打設状況 中埋状況	1基に1回 〔施工時〕	
3 ±	2	基	8		ニューマチックケーソン基礎エ	沓	1基毎に1回 〔据付後〕	
土木工事共通編	般施工	礎 工				ケーソンの長さ ケーソンの幅 ケーソンの高さ ケーソンの壁厚 偏心量 鉄筋組立状況	1ロット毎に1回 〔設置後及び型枠取外し後〕	
						載荷状況	1基に1回 〔載荷時〕	
						封鎖コンクリート 打設状況 中埋状況	1基に1回 〔施工時〕	
3 ±	7 2	4 基	9		鋼管矢板基礎工	沓	1基毎に1回 〔据付後〕	
3 土木工事共通編	般施工	礎 工				根入長 偏心量 鉄筋組立状況	1基毎に1回 〔設置後〕	
共通						載荷状況	1基に1回 〔載荷時〕	
柳						封鎖コンクリート 打設状況 中埋状況	1基に1回 〔施工時〕	
3 土木工事:	2一般施工	5 石・ブロッ	3	1	コンクリートブロックエ (コンクリートプロック積) (コンクリートプロック張り)	厚さ(裏込) (胴込)	40mに1回又は1施工箇所に2回 〔施工中〕 各断面変化点 3m未満は上・下端 3m以上は上・下端及び中位	
事共通編		ク積(張)エ				法長厚さ(ブロック積張)	40mに1回又は1施工箇所に2回 〔施工後〕	
3土木工事共通編	2一般施工	5石・ブロック積(張)エ	3	2	コンクリートブロックエ (連節ブロック張り)	法長	40mに1回又は1施工箇所に2回 〔施工後〕	

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

4 =	±	h-h-	R	枝	T 14		写真管理項目	摘
編	章	節	条	枝番	工 種	撮影項目	撮影頻度[時期]	要
3 土木工事共通編	2一般施工	5石・ブロック積(張)エ	З	ത	コンクリートブロックエ (天端保護ブロック)	幅	40mに1回又は1施工箇所に2回 〔施工後〕	
3 土木工事共通編	2一般施工	5石・ブロック積(張)エ	4		緑化ブロックエ	厚さ(裏込) 法長 厚さ(ブロック)	40mに1回又は1施工箇所に2回 〔施工中〕 40mに1回又は1施工箇所に2回 〔施工後〕	
3 土木工事共通編	2一般施工	5石・ブロック積(張)エ	5		石積(張)工	厚さ(裏込) 法長 厚さ(石積・張)	40mに1回又は1施工箇所に2回 〔施工中〕 40mに1回又は1施工箇所に2回 〔施工後〕	
3 土 木	2 一 般	6 一 般	7	1	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
事	施工	舗装				整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
土木工事共通編		Ή				厚さ幅	各層毎200mに1回 「整正後」 ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に より「厚さあるいは標高較差」を管 理する場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
						 	を借毎40mに「回 「整正後」 ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合))に よる場合は各層毎1工事に1回 「整正後」	

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

	一				- #		写真管理項目	摘	
編	章	節	条	枝番	工 種		撮影頻度[時期]	要	
3 ±	2	6	7	2	アスファルト舗装工(上層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	極彩頻及[い初] 各層毎400mに1回 〔施工中〕	X	
木工事	般施工	般舗装			粒度調整路盤工 	整正状況	 各層毎400mに1回 〔整正後〕		
事共通編		Î				厚さ	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
47113								ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に より「厚さあるいは標高較差」を管 理する場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎40mに1回 〔整正後〕		
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回」 〔整正後〕		
3 土 木	2 一 般	6 一般	7	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 施工中]		
事	施工	舗装				整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕		
木工事共通編		エ				厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕		
							※コアを採取した場合は写真不要		
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に より「厚さあるいは標高較差」を管 理する場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕		
						幅	各層毎40mに1回 「整正後〕		
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕		

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

	_		_	枝			写真管理項目	摘
編	章	節	条	枝番	工 種		撮影頻度[時期]	要
3 ±	2	6	7	4	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
不工事	般施工	般舗装				整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
土木工事共通編		Ĭ				幅	各層毎40mに1回 〔整正後〕	
編							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
3	2	6	7	5	アスファルト舗装工	整正状況	400mに1回 (軟工体)	
土木工事共通編	一般施工	一般舗装			(基層工)	タックコート、 プライムコート	「整正後」 各層毎に1回 〔散布時〕	
井通編	_	I				幅	各層毎40mに1回 〔整正後〕	
49 111							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(舗装工事編 多 点計測技術(面管理の場合)」によ る場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
3	2	6	7	6	アスファルト舗装工	整正状況	400mに1回 (東工体)	
土木工事共通	一般施工	一般舗装			(表層工)	タックコート、 プライムコート	「整正後」 各層毎に1回 〔散布時〕	
ず 共通編	_	衣工				平坦性	 1工事に1回 〔実施中〕	

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

				±±				写真管理項目	摘
編	章	節	条	枝番	エ	種		撮影頻度[時期]	要
3 ±	2	6 —	8	1	半たわみ性舗装工 (下層路盤工)		敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 400mに1回 〔施工中〕	
土木工事共通	般施工	般舗装					整正状況	各層毎 400mに1回 〔整正後〕	
共通編		I					厚さ	各層毎 200mに1回 〔整正後〕	
					ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に より「厚さあるいは標高較差」を管 理する場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕				
							 幅	各層毎 40mに1回 〔整正後〕	
								ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
3 土 木	2 一 般	6 一 般	8	2	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工		敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 400mに1回 〔施工中〕	
- 工事共通	施工	祖舗装工			位 及调 <u>造</u> 时盛工		整正状況	各層毎 400mに1回 〔整正後〕	
通編		_					厚さ	各層毎 200mに1回 〔整正後〕	
								ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に より「厚さあるいは標高較差」を管 理する場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
							幅	 各層毎 40mに1回 〔整正後〕	
								ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

				±±			工画所にO回」は、頻度の多い方を採用 写真管理項目	摘
編	章	節	条	枝番	エ 種	—————————————————————————————————————	撮影頻度[時期]	要
3 ± *	2 一 般	6 一 般	8	3	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 400mに1回 〔施工中〕	
土木工事共通	施工	舗装			ピグンド(石灰)女足処理工	整正状況	各層毎 400mに1回 〔整正後〕	
通編		I				厚さ	1,000 ㎡に1回 〔整正後〕	
							※コアを採取した場合は写真不要	
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に より「厚さあるいは標高較差」を管 理する場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎 40mに1回 〔整正後〕	
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案) 舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」、 による場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
3 ±	2 _	6	8	4	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 400mに1回 〔施エ中〕	
木工	般施	般舗			, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			
土木工事共通	エ	装工				整正状況	各層毎 400mに1回 〔整正後〕	
編						幅	各層毎 40mに1回 〔整正後〕	
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

				1.2			写真管理項目	摘
編	章	節	条	枝番	工 種	担以市口	撮影頻度[時期]	要
3	2	6	8	5	半たわみ性舗装工	撮影項目 整正状況	版彰頻度[時期] 400mに1回	女
	一般施	o 一般舗	0	5	(基層工)	一	[整正後]	
土木工事共通		装工				タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
編						幅	各層毎 40mに1回 〔整正後〕	
3 土 木	2 一 般	6 一般	8	6	半たわみ性舗装工 (表層工)	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	施工	舗装工				タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
編						浸透性ミルク注入 状況	400mに1回 〔注入時〕	
						平坦性	1工事1回 〔実施中〕	
3 土 木	2 一般	6 般:	9	1	排水性舗装工 (下層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 400mに1回 〔施工中〕	
木工事共通	施工	舗 装 工				整正状況	各層毎 400mに1回 〔整正後〕	
編						厚さ	各層毎 200mに1回 〔整正後〕	
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に より「厚さあるいは標高較差」を管 理する場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎 40mに1回 〔整正後〕	
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

				++			写真管理項目	摘	
編	章	節	条	枝 番	工 種		撮影頻度[時期]	要	
3 土 木	2 一 般	6 一般	9	2	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 400mに1回 [施工中]	~	
个工事共通	施工	超舗装工			社 及 调 定	整正状況	各層毎 400mに1回 〔整正後〕		
通編		1				厚さ	各層毎200mに1回 〔整正後〕		
								ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に より「厚さあるいは標高較差」を管 理する場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎 40mに1回 〔整正後〕		
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕		
					III I III Abde —				
3 土 木	2 — 般	6 一般	9	3	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 400mに1回 〔施工中〕		
木工事共通	施工	舗装工				整正状況	各層毎 400mに1回 〔整正後〕		
通編						厚さ	1,000 ㎡に1回 〔整正後〕		
							※コアを採取した場合は写真不要 ただし、「3次元計測技術を用いた		
							出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に より「厚さあるいは標高較差」を管 理する場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕		
						幅	各層毎 40mに1回 〔整正後〕		
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合))に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕		

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

				++			工画所に <u>〇回」は、頻度の多い力を採用</u> 写真管理項目	摘
編	章	節	条	枝 番	工 種		撮影頻度[時期]	要
3 ±	2 —	6 —	9	4	排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 400mに1回 〔施工中〕	
木工事	般施工	般舗装				整正状況	各層毎 400mに1回 〔整正後〕	
工事共通編		I				幅	各層毎40mに1回 〔整正後〕	
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
3 土 木	2 一 般	6 一 般	9	5	排水性舗装工 (基層工)	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	
土木工事共通編	施工	放舗 装 工				タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
3 土	2	6 —	9	6	排水性舗装工 (表層工)	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	
木工事共通	般施工	般舗装				タックコート、プラ イムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
共通編		エ				平坦性	1工事1回 〔実施中〕	
3 土 木	2 一 般	6 一般	10	1	透水性舗装工 路盤工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 400mに1回 〔施エ中〕	
工	施工	舗装				整正状況	各層毎 400mに1回 〔整正後〕	
工事共通		五				厚さ	各層毎200mに1回 〔整正後〕	
編							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に より「厚さあるいは標高較差」を管 理する場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎 40mに1回 〔整正後〕	
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

	_			枯			写真管理項目	摘
編	章	節	条	枝番	エ 種	撮影項目	撮影頻度[時期]	要
3 ±	2 —	6 —	10	2	透水性舗装工表層工	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	
土木工事共通編	般施工	般舗装工			衣眉 上	タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
通編						平坦性	1工事1回 〔実施中〕	
3 土 木	2 一 般	6 一般	11	1	グースアスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 400mに1回 〔施工中〕	
木工事共通	施工	舗装工				整正状況	各層毎 400mに1回 〔整正後〕	
通編		_				幅	各層毎 40mに1回 〔整正後〕	
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
3	2	6	11	2	グースアスファルト舗装工	整正状況	400mに1回	
土木	般	般			(基層工)		〔整正後〕	
土木工事共通編	施工	舗 装 工				タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
3	2	6	11	3	グースアスファルト舗装エ (表層エ)	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	
土木工事	般施工	般舗装				タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
事共通編		I				平坦性	1工事1回 〔実施中〕	

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

	_			林			写真管理項目	摘
編	章	節	条	枝番	エを種	撮影項目	撮影頻度[時期]	要
3 土 木	2 一 般	6 一 般	12	1	コンクリート舗装工 (下層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
土木工事共通	施工	舗装				整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
共通編		エ				厚さ	各層毎200mに1回 〔整正後〕	
						ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に より「厚さあるいは標高較差」を管 理する場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕		
						幅	各層毎40mに1回 〔整正後〕	
							ただし、「3次元計測技術を用いた	
							出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回	
							〔整正後〕	
3 土 木	2 一 般	6 一般	12	2	コンクリート舗装工(粒度調整路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施エ中〕	
土木工事共通	施 工	舗装				整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
共 通 編		エ				厚さ	各層毎200mに1回 〔整正後〕	
47110							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に より「厚さあるいは標高較差」を管 理する場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎40mに1回 〔整正後〕	
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

4=	ᆓ	<i>h-</i>	ъ	枝	T 12		写真管理項目	摘
編	章	節	条	枝 番	エを種	撮影項目	撮影頻度[時期]	要
3 土 木	2 一 般	6 一般	12	3	コンクリート舗装工 (セメント(石灰・瀝青)安定処理 エ)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
工事共通	施工	舗装工				整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
通編						厚さ	1,000㎡に1回 [整正後] ※コアを採取した場合は写真不要 ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に より「厚さあるいは標高較差」を管 理する場合は各層毎1工事に1回 [整正後]	
						市富	各層毎40mに1回 [整正後] ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回」 〔整正後〕	
3	2	6	12	4	コンクリート舗装工	整正状況	400m/c1回	
土木	般	般			(アスファルト中間層)		〔整正後〕	
工事共通	施工	舗装工				タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
通編						幅	各層毎40mに1回 〔整正後〕	
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回」 〔整正後〕	

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

/= + + - - -					写真管理項目	摘		
編	章	節	条	枝番	エ 種		撮影頻度[時期]	要
3 土 木 エ	2 一 般	6 一般	12	5	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版工)	石粉、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
不工事共通!	施工	超舗装工				スリップバー、 タイバー寸法、 位置	40mに1回 〔据付後〕	
編						鉄網寸法 位置	40mに1回 〔据付後〕	
						平坦性	1工事1回 〔実施中〕	
						厚さ	各層毎200mに1回 〔型枠据付後〕	
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に より「厚さあるいは標高較差」を管 理する場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
						目地段差	1工事に1回	
3 ±	2	6	12	6	コンクリート舗装工(転圧コンクリート版工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施エ中〕	
土木工事共通	般施工	般舗装用			下層路盤工	整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
通 編		エ				厚さ	各層毎200mに1回 〔整正後〕	
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に より「厚さあるいは標高較差」を管 理する場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎40mに1回 〔整正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

				林			写真管理項目	摘
編	章	節	条	枝 番	エ 種		撮影頻度[時期]	要
3 土 木	2 一 fn.	6 一 般	12	7	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤エ	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
I T	般施工	超舗装			型皮调 企	整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
事共通編		Ĩ				厚さ	各層毎200mに1回 〔整正後〕	
1) 							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に より「厚さあるいは標高較差」を管 理する場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎40mに1回 〔整正後〕	
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
3	2	6	12	8	コンクリート舗装工	敷均し厚さ	各層毎400mに1回	
土木工	般	般			(転圧コンクリート版工) セメント(石灰・瀝青)安定処理工	転圧状況	〔施工中〕	
工事	施工	舗装				整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
事共通編		エ				厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕	
初冊							※コアを採取した場合は写真不要	
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(舗装工事編 多 点計測技術(面管理の場合)」により 「厚さあるいは標高較差」を管理す る場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
						幅	各層毎40mに1回 〔整正後〕	
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

				枯			写真管理項目	摘
編	章	節	条	枝 番	エ 種		撮影頻度[時期]	要
3 土 木	2	6	12	9	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	
エ	般施工	般舗装			アスファルト中間層	タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
事共通編		エ				幅	各層毎40mに1回 〔整正後〕	
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(舗装工事編 多 点計測技術(面管理の場合)」によ る場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
3 土 木	2 一 般	6 一般	12	10	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	敷均し厚さ 転圧状況	400mに1回 〔施工中〕	
工事共	施工	舗装工				厚さ	各層毎200mに1回 〔型枠据付後〕	
通編		1					ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(舗装工事編 多 点計測技術(面管理の場合)」により 「厚さあるいは標高較差」を管理す る場合は各層毎1工事に1回	
						平坦性	【整正後】	
						十垣任 	[実施中]	
ΉНε	2 一般	6 一般	12	11	コンクリート舗装工 (連続鉄筋コンクリート舗装工)	石粉 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
工事共通	施工	舗装工				鉄筋寸法、位置 横拡張目地部	80mに1回 〔据付時〕 1施工箇所に1回	
八通編		_				横孤張日地郡 ダウェルバー 寸法、位置	[据付後]	
						縦そり突合せ 目地部・縦そり ダミー目地部タイ バー寸法、位置	80mに1回 〔据付後〕	
						平坦性	1工事に1回 〔実施中〕	
						厚さ	各層毎200mに1回 〔型枠据付後〕 〔スリップフォームエ法の場合は打 設前後〕	
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に より「厚さあるいは標高較差」を管 理する場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
						目地段差	1工事に1回	

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

			-	枝			写真管理項目	摘
編	章	節	条	枝番	エを種		撮影頻度[時期]	要
3 ±	2	6 —	13	1	薄層カラー舗装工 (下層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施エ中〕	
土木工事共通	般施	般舗				整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
事共	エ	装工				厚さ	各層毎200mに1回 〔整正後〕	
通編						幅	各層毎40mに1回 〔整正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
3 ±	2	6	13	2	薄層カラー舗装工 (上層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
土木工事共通	般 施	般 舗			粒度調整路盤工	整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
事共	エ	装工				厚さ	各層毎200mに1回 〔整正後〕	
通編						幅	各層毎40mに1回 〔整正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
3 ±	2	6	13	3	薄層カラー舗装工 (上層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施エ中〕	
木工	般 施	般 舗			セメント(石灰)安定処理工	整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
土木工事共通	エ	装工				厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真不要	
編						幅	各層毎40mに1回 〔整正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
3 ±	2	6	13	4	薄層カラー舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎400mに1回 〔施工中〕	
木エエ	般施	般舗				整正状況	各層毎400mに1回 〔整正後〕	
事共通編	H	装工				幅	各層毎40mに1回 〔整正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
3 ±	2	6	13	5	薄層カラー舗装工 (基層工)	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	
木工事共通	般施工	般舗				タックコート、 プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
井	エ	装工				厚さ	1,000㎡に1回 〔整正後〕	
編						幅	各層毎40mに1回 〔整正後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回	
							〔整正後〕	

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

				++			写真管理項目	摘
編	章	節	条	枝番	エ 種	 撮影項目	撮影頻度[時期]	要
3 ±	2	6	14	1	ブロック舗装工	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 400mに1回	
木工	般施	般舗			(下層路盤工)	整正状況	〔施工中〕 各層毎 400mに1回 〔整正後〕	
木工事共通	I	装工				厚さ	各層毎 200mに1回 〔整正後〕	
通編						幅	各層毎 40mに1回 〔整正後〕	
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
3 +	2	6	14	2	ブロック舗装工 (上層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 400mに1回 〔施工中〕	
土木工事共通編	般施	般舗			粒度調整路盤工	整正状況	各層毎 400mに1回 〔整正後〕	
事共	エ	装 工				厚さ	各層毎 200mに1回 〔整正後〕	
通編						幅	各層毎 40mに1回 〔整正後〕	
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に	
							よる場合は各層毎1工事に1回 整正後〕	
3 ±	2 —	6	14	3	ブロック舗装工 (上層路盤工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 400mに1回 〔施工中〕	
不工事	般施工	般舗			セメント(石灰)安定処理エ	整正状況	各層毎 400mに1回 〔整正後〕	
土木工事共通		装工				厚さ	1,000 ㎡に1回 〔整正後〕 ※コアを採取した場合は写真不要	
編						幅	ペコノを採取した場合は子具不安 各層毎 40mに1回 〔整正後〕	
							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に	
							よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
3 ±	2	6	14	4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	敷均し厚さ 転圧状況	各層毎 400mに1回 〔施工中〕	
木工	般施工	般舗				整正状況	各層毎 400mに1回 〔整正後〕	
土木工事共通	エ	装工				幅	各層毎 40mに1回 〔整正後〕	
編							ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合)」に	
							よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
3 土木	2 一般	6 一般	14	5	ブロック舗装工 (基層工)	整正状況	400mに1回 〔整正後〕	
工事共通編	施工	舗装工				タックコート プライムコート	各層毎に1回 〔散布時〕	
編]						

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

	_		_	枝			写真管理項目	摘
編	章	節	条	枝番	エ 種	撮影項目	撮影頻度[時期]	要
3 土 木 エ	2 一 般 施	6 一般舗	15		路面切削工	厚さ(基準高)幅	40mに1回又は1施工箇所に2回 〔施工後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた	
土木工事共通編	I	装工					出来形管理要領(案)舗装工事編 多点計測技術(面管理の場合))に よる場合は各層毎1工事に1回 〔整正後〕	
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	16		舗装打換え工	幅 延長 厚さ	各層毎1回/1 施工箇所 [施工後]	
_	2 一 般	6 一 般	17		オーバーレイエ	平坦性	1施工箇所に1回 〔施工後〕	
3土木工事共通編	施工	超舗装工				タックコート	各層毎に1回 〔散布後〕	
						整正状況	200mに1回 〔整正後〕	
3土木工事共通編	2一般施工	7地盤改良エ	2		路床安定処理工	施工厚さ 幅	40mに1回又は1施工箇所に2回 〔施工後〕	
3 土木工事共通編	2 一般施工	7地盤改良工	Ø		置換工	置換厚さ幅	40mに1回又は1施工箇所に2回 〔施工後〕	

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

			_	枝			写真管理項目	摘
編	章	節	条	枝番	エを種	撮影項目	撮影頻度[時期]	要
3 土木工事共通編	2一般施工	7 地盤改良工	5		パイルネットエ	厚さ幅	40mに1回又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	
3 土木工事共通編	2一般施工	7 地盤改良工	6		サンドマットエ	施工厚さ幅	40mに1回又は1施工箇所に2回 〔施工後〕	
3 土木工事共通編	2一般施工	7 地盤改良工	8		バーチカルドレーンエ (サンドドレーンエ) (ペーパードレーンエ) (袋詰式サンドドレーンエ) 締固め改良エ (サンドコンパクションパイルエ)	打込長さ 施工状況 杭径 位置・間隔 砂の投入量	100m2に1回又は1施工箇所に1回 〔打込み前後、施工中〕 100m2に1回又は1施工箇所に1回 〔打込後〕 全数量 〔打込前後〕	
3土木工事共通編	2一般施工	7地盤改良工	9	1	固結工 (粉末噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (生石灰パイル工)	位置•間隔杭径深度	25本に1回、25本以下は2回 〔打込後〕 全数量 〔打込前後〕 ただし、(スラリー攪拌工)において、「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)固結エ(スラリー 撹拌工)編」により出来形管理資料 を提出する場合は、出来形管理に 関わる写真管理項目を省略できる	
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	9	2	固結工 (中層混合処理)	施工厚さ幅	1,000m3~4,000m3 につき 1 回、 又は施工延長 40m(測点間隔 25m の場合は 50m)につき 1 回。 [施工厚さ 施工中] [幅 施工後] ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)表層安定処 理等・固結工(中層混合処理)編」 により出来形管理資料を提出する 場合は、出来形管理に関わる写真 管理項目を省略できる。	

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

				+±		写真管理項目		
編	章	節	条	枝 番	エ 種	撮影項目	撮影頻度[時期]	摘要
3 土木工事共通編	2一般施工	10 仮設工	5	1	土留·仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	変位根入長数量	40mに1回又は1施工箇所に2回 〔打込前後〕 全数量	
デ 共 通 編 っ	2	10	5	2	土留•仮締切工	削孔深さ	[打込後]	
土木	一般	仮設	0	۷	(アンカーエ)		〔削孔後〕	
3 土木工事共通編	施工	I				配置誤差	全数量 〔施工後〕	
	2一般施工	10 仮設工	5	3	土留・仮締切工(連節ブロック張り工)	法長	40mに1回又は1施工箇所に2回 [施工後]	

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

<i>i</i> =	 -	<i>h-</i> -		枝			写真管理項目	摘
編	章	節	条	枝番	工 種	撮影項目	撮影頻度[時期]	要
3 土木工	2 一 般 施	12 工場製:	6		落橋防止装置製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	
土木工事共通編	エ	作工				製作状況	適宜 〔製作中〕	
3 土木工	2一般施	12 工場製	7		橋梁用防護柵製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	
工事共通編	Ī	作工				製作状況	適宜 〔製作中〕	
3土木工事共通編	2一般施工	12 工場製作工	8		アンカーフレーム製作工	仮組立寸法 (撮影項目は適 宜)	1橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕	
3土木工事共通編	2一般施工	12 工場製作工	9		プレビーム用桁製作工	原寸状況 製作状況 仮組立寸法	1橋に1回又は1工事に1回 (原寸時) 適宜 (製作中) 1橋に1回又は1工事に1回	
編							「仮組立時」	
3 土木	2 一般	12 工 場	10		鋼製排水管製作工	原寸状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	
工事共通編	施工	製作工				製作状況	適宜 〔製作中〕	
3 土 木	2 一 般	12 工 場	11		工場塗装工	材料使用量 (塗料缶)	全数量〔使用前後〕	
事共	施工	製作エ				素地調整状況 (塗替)	部材別 〔施工前後〕	
通編						塗装状況	各層毎に1回 〔塗装後〕	
3 土木工事共通編	2一般施工	13橋梁架設工	1		架設工 (クレーン架設) (ケーブルクレーン架設) (ケーブルエレクション架設) (架設桁架設) (送出し架設) (トラベラークレーン架設)	架設状況	架設工法が変わる毎に1回 〔架設中〕	

【第3編 土木工事共通編】

※撮影頻度

4 ≡	並	<i>h</i> -k-	Æ	枝	-		写真管理項目	摘
編	章	節	条	枝番	エを種	撮影項目	撮影頻度[時期]	要
3 土 木 エ	2一般的	14 法面=	2	1	植生工 (種子散布工) (張芝工)	材料使用量	1工事に1回 〔混合前〕	
→ 事 共 通	施工	I			(筋芝工) (市松芝工) (植生シートエ、植生マットエ)	土羽土の厚さ	40mに1回又は1施工箇所に2回 〔施工中〕	
週 編 					(植生筋工) (人工張芝工) (植生穴工)	法長	40mに1回又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	
3 ±	2	14 法	2	2	植生工 (植生基材吹付工)	清掃状況	200㎡に1回又は1施工箇所に2回 〔清掃後〕	
土木工	般施	面工			(客土吹付工)	ラス鉄網の重ね 合せ寸法	200㎡に1回又は1施工箇所に2回 〔吹付前〕	
工事共通編	エ					厚さ(検測孔)	200㎡に1回又は1施工箇所に2回 〔吹付後〕	
通編						法長	40mに1回又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	
						材料使用量	1工事に1回 〔混合前〕	
3 ±	2	14 法	3		吹付工 (コンクリート)	清掃状況	200㎡に1回又は1施工箇所に2回 〔清掃後〕	
木	般施	面工			(モルタル)	ラス鉄網の重ね 合せ寸法	200㎡に1回又は1施工箇所に2回 〔吹付前〕	
工事共通	エ					法長	40mに1回又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	
通編						厚さ(検測孔)	200㎡に1回又は1施工箇所に2回 〔吹付後〕	
3 土 木	2 一般	14 法 面	4	1	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法長	40mに1回又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	
木工事	施工	Ϊ				幅、高さ、	枠延延長100mに1回又は1施工箇 所に1回	
事共通						枠中心間隔	[施工後]	
編							ただし、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)法面工編」に	
							基づき写真測量に用いた画像を納品する場合には、写真管理に代えることが出来る。	
3 ±	2	14 法	4	2	法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長	40mに1回又は1施工箇所に1回 〔施工後〕	
木工	般施	面工						
木工事共通編	I							
	2	14	6		アンカーエ	削孔深さ	全数	
3 土木工事共通編	般	法面工					[削孔後]	
事出	施 工	エ				配置誤差	全数 [施工後]	
通編							(ルビエ 交)	

【第10編 道路編】

※撮影頻度

						「「して、回文は、他工画所にし回」は、頻度の多い方を採用		
編	章	節	条	枝番	工 種	#B-===		摘
10	_	0	3	田	网制场叫制	撮影項目	撮影頻度[時期]	要
10	3橋	з Н	3		鋼製橋脚製作工	原寸状況	1脚に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕	
路編	梁下	場製				製作状況	適宜 〔製作中〕	
	部	作 工				仮組立寸法 (撮影項目は適宜)	1脚に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕	
10 道路編	3橋梁下部	6橋台工	8		橋台躯体工	厚さ 天端幅(橋軸方向) 敷幅(橋軸方向) 高さ 胸壁の高さ 天端長 敷長	全数量 〔型枠取外し後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)構造物工編 (試行)」により出来形管理資料を 提出する場合は、出来形計測状況 を1工事1回	
10 道路編	3橋梁下部	7RC橋脚工	9	1	橋脚躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)	厚さ 天端幅 敷幅 高さ 天端長 敷長	全数量 〔型枠取外し後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)構造物工編 (試行)」により出来形管理資料を 提出する場合は、出来形計測状況 を1工事1回	
10 道路編	3橋梁下部	7RC橋脚工	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)	厚さ 天端幅 敷幅 高さ 長さ	全数量 〔型枠取外し後〕 ただし、「3次元計測技術を用いた 出来形管理要領(案)構造物工編 (試行)」により出来形管理資料を 提出する場合は、出来形計測状況 を1工事1回	
10 道路編	3橋梁下部	8鋼製橋脚工	9	1	橋脚フーチングエ (I型・T型)	幅高さ長さ	全数量 〔型枠取外後〕	
10 道路編	3橋梁下部	8鋼製橋脚工	9	2	橋脚フーチングエ (門型)	幅高さ	全数量 〔型枠取外後〕	
10 道路編	3橋梁下部	8鋼製橋脚工	10	1	橋脚架設工 (I型·T型)	架設状況	架設工法が変わる毎に1回 〔架設中〕	
10 道路編	3橋梁下部	8鋼製橋脚工	10	2	橋脚架設工 (門型)	架設状況	架設工法が変わる毎に1回 〔架設中〕	

【第10編 道路編】

※撮影頻度

	_		_	枝		写真管理項目		
編	章	節	条	枝 番	工種	撮影項目	撮影頻度[時期]	摘要
10 道路編	3橋梁下部	8鋼製橋脚工	11		現場継手工	継手部のすき間	1施工箇所に1回 〔施工後〕	
10 道路編	4 鋼橋上部	3工場製作工	9		橋梁用高欄製作工	製作状況	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕	
10 道路編	4 鋼橋上部	8橋梁付属物工	3		落橋防止装置工	アンカーホ・ルト孔の削孔長	1 施工箇所に1回 〔削孔後〕	
10 道路編	5コンクリート橋上部	6プレビーム桁橋エ	2		プレビーム桁製作工(現場)	原寸状況 製作状況 仮組立寸法 幅 高さ	1橋に1回又は1工事に1回 〔原寸時〕 適宜 〔製作中〕 1橋に1回又は1工事に1回 〔仮組立時〕 桁毎に1回 〔型枠取外し後〕	
10 道路編	6トンネル(NATM)	3掘削工	2		掘削工	切羽の状況	岩質の変わる毎又は 20mに1回以 上 〔掘削中〕	
10 道路編	6トンネル(NATM)	4 支保工	3		吹付工	岩質 湧水状況 吹付面の清掃 状況 金網の重合せ 状況 吹付け厚さ (検測孔)	岩質の変わる毎に1回 「掘削中」 適宜 「掘削中」 40m毎に1回 〔清掃後〕 40m毎に1回 〔2次吹付前〕 40m毎に3箇所 〔吹付後〕	

【その他】

※撮影頻度

					++		写真管理項目			
編	章	節	条	枝番	エ	種	 撮影項目	撮影頻度[時期]	摘 要	
その)./#h				トンネル坑門工		厚さ、幅、高さ	1施工箇所に1回		
		関係)				序で、幅、同で	「埋戻し前」		
					トンネル (矢板工法)		岩質	岩質の変わる毎に1回 〔掘削中〕		
								適宜 〔掘削中〕		
							埋設支保工(建込間 隔、寸法、基数)	40mに1回又は1施工箇所に 2回 〔建込後〕		
							湧水処理工設置状況	全数量 〔設置後〕		
							集水渠(幅、高さ、位置)	40mに1回又は1施工箇所に 2回 〔設置後〕		
							地下排水工(管接合 据付状況)			
							地下排水工(フィルター厚さ)	40mに1回又は1施工箇所に 2回 〔投入前後〕		
							矢板設置状況	岩質の変わる毎に1回 〔設置後〕		
							グラウト材料使用量	全数量 〔使用前後〕		
その(トン		関係)		シールド		掘削の地山状態	地質の変化の毎に1回 〔掘削中〕		
							セグメント組立状況	1工事に1回 〔組立後〕		
							二次覆工(セグメント 清掃状況)	1工事に1回 〔清掃後〕		
							二次覆工の厚さ	1スパンに1回 〔型枠取外し後〕		

【その他】

※撮影頻度

				++		写	真管理項目	摘
編	章	節条番	工 種		撮影頻度[時期]	要		
その)他				 アスファルト舗装	打換パッチング	施工日に1回 〔施工前後〕	
		繕工阝	[係)		コンクリート舗装	目地掃除	3,000 ㎡に1回 〔施工前後〕	
			• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •			目地充填	3,000 ㎡に1回 〔施工術及〕	
						注入工、削孔状況	2,000 ㎡に1回 〔削孔後〕	
						(位置、間隔)		
						注入工、注入圧	2,000 m に1回 〔注入時〕	
						目地亀裂防止材、張	3,000 ㎡に1回 〔張付け後〕	
						付け状況		
						局部打換、各層厚さ	各層毎 100mに1回又は1施	
							工箇所に1回 〔施工前後〕	
					路肩、路側路盤工	厚さ	100mに1回又は1施工箇所	
							に1回[施工後]	
					道路除草	施工状況	2kmに1回(1回刈毎)	
							〔施工前後〕	
					路肩整正	施工状況	1kmに1回	
					新設、更新、修理防護柵類	施工状況	1施工箇所に1回(施工前は	
							必要に応じて) [施工前後]	
					新設、更新、修理標識類	基礎幅、深さ、施工	基礎タイプ毎5カ所に1回(施	
						状 況	工前は必要に応じて)	
							〔施工前後〕	
					新設、更新、修理照明灯	基礎幅、深さ、施工	基礎タイプ毎5カ所に1回(施	
						状況	工前は必要に応じて)	
							[施工前後]	
					視線誘導標	施工状況	施工日に1回	
						15 - 15 >=	[施工後]	
					清掃(路面、標識、側溝、集水桝)	│ 施工状況 │	施工日に1回	
						# - Jb > -	〔施工前後〕	
					区画線路面表示	施工状況	施工日に1回	
							〔施工前後〕	
						材料使用量	全数量〔施工前後〕	
					街路樹植樹	施工状況	適宜 〔施工前後〕	
					街路樹補強補植	施工状況	適宜 〔施工前後〕	
					街路樹剪定	施工状況	街路樹 50 本1回、グリーンベ	
							ルト 100m1回 〔施工前後〕	
					街路樹消毒、施肥	│施工状況 │	街路樹 50 本1回、グリーンベ	
					death with The	15-16-5	ルト100m1回 〔施工中〕	
					街路樹雪囲	施工状況	適宜 〔施工後〕	
					排雪除雪	施工状況、機種	施工中に1回 施工中	
					凍結防止剤散布	施工状況	施工中に1回 施工中	
						材料使用量	全数量〔施工前後〕	
					河川除草	施工状況、刈草処理	1kmに1回(1回刈毎)	
						状況	〔施工前後〕	